

# 資 料 編

～ 青森県建設産業ビジョン資料編 目次～

資料 1 . 国内建設投資の推移 . . . . .	P 1
資料 2 . 景気対策一覧表 . . . . .	P 1
資料 3 . 青森県の社会資本整備状況 . . . . .	P 2
資料 4 . 青森県の主な産業の総生産の推移 . . . . .	P 4
資料 5 . 青森県における産業別就業者数の推移 . . . . .	P 5
資料 6 . 青森県内市町村別純生産・就業者産業別構成比 . . . . .	P 6
資料 7 . 青森県の建設投資と経済波及効果の推移 . . . . .	P 7
資料 8 . 青森県の総工事費の推移(平成 11 年度～13 年度) . . . . .	P 8
資料 9 . 建設業許可業者数(平成 14 年 3 月末現在) . . . . .	P 9
資料 10 . 建設業許可業者数の推移(全国、青森県) . . . . .	P10
資料 11 . 「建設業許可申請理由アンケート」の結果 . . . . .	P11
資料 12 . 平成 13 年度国家資格者数(東北 6 県) . . . . .	P19
資料 13 . 建設業における雇用管理等に関する実態調査 . . . . .	P20
資料 14 . 有資格者に対する評価について . . . . .	P21
資料 15 . 都道府県別産業別賃金水準 . . . . .	P22
資料 16 . 青森県建設業の「特別給与」の水準推移 . . . . .	P23
資料 17 . 産業別賃金形態別就業者割合 . . . . .	P24
資料 18 . 建設投資における公共依存度の都道府県順位(平成 13 年度) . . . . .	P25
資料 19 . 主な財務指標と付加価値、財務用語の説明 . . . . .	P26
資料 20 . 「青森県建設産業の経営及び情報化のビジョン策定事業」 現況調査報告書(抜粋) . . . . .	P28
資料 21 . 高齢者福祉の実態 . . . . .	P35
用語の説明 . . . . .	P36

## <資料1> 国内建設投資の推移

### 国内建設投資の推移

(単位：兆円)

	昭和61 年度	62年度	63年度	平成元 年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
公共土木	16.3	18.5	17.4	18.6	19.3	23.5	25.3	28.9	26.9	27.6	25.7	25.1	26.4	26.4	25.0	23.6	22.0	19.8
公共建築非居住用	2.9	3.1	3.5	3.8	4.0	4.6	5.1	5.1	5.4	4.8	4.5	4.1	3.9	3.7	3.3	3.2	2.1	2.0
公共建築居住用	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	1.1	1.2	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2	1.2	1.1	0.9	0.9	0.9	0.9
民間土木	4.7	6.1	7.3	7.5	7.8	8.9	8.7	8.0	7.1	6.7	6.0	5.7	5.6	5.4	5.4	5.1	6.2	6.1
民間建築非居住用	10.6	12.0	14.8	18.1	21.9	23.1	20.1	15.1	11.8	11.3	11.3	11.1	9.6	8.7	8.9	7.8	8.0	7.9
民間建築居住用	17.2	21.5	23.5	25.7	28.6	26.5	25.0	25.6	26.7	25.4	28.5	23.2	20.6	21.2	20.8	18.9	17.5	17.2
合計	52.7	61.9	67.3	74.6	82.4	87.7	85.4	84.0	79.3	77.0	77.3	70.5	67.2	66.4	64.3	59.6	56.7	53.9

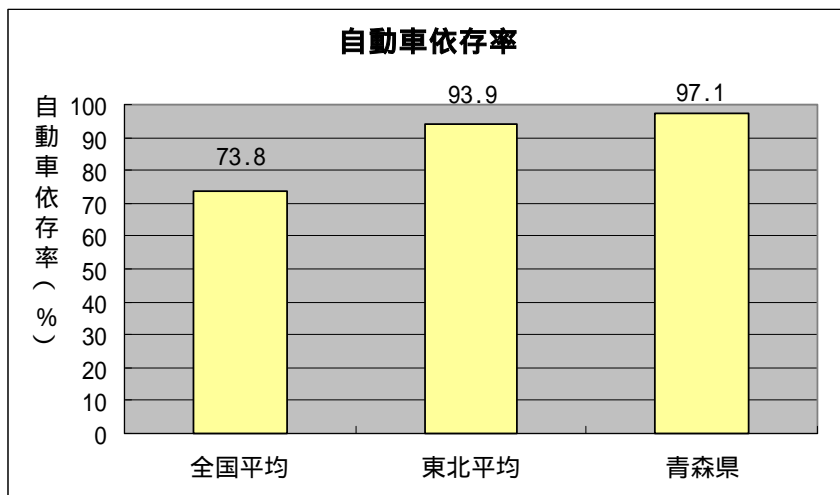
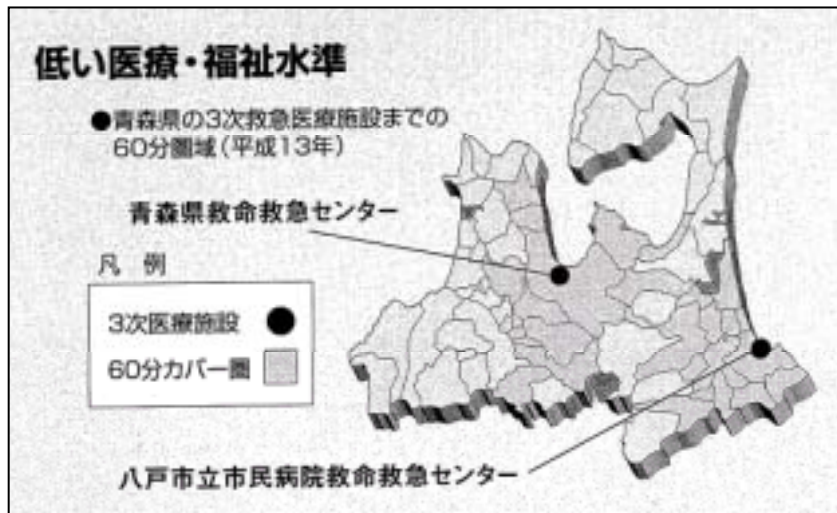
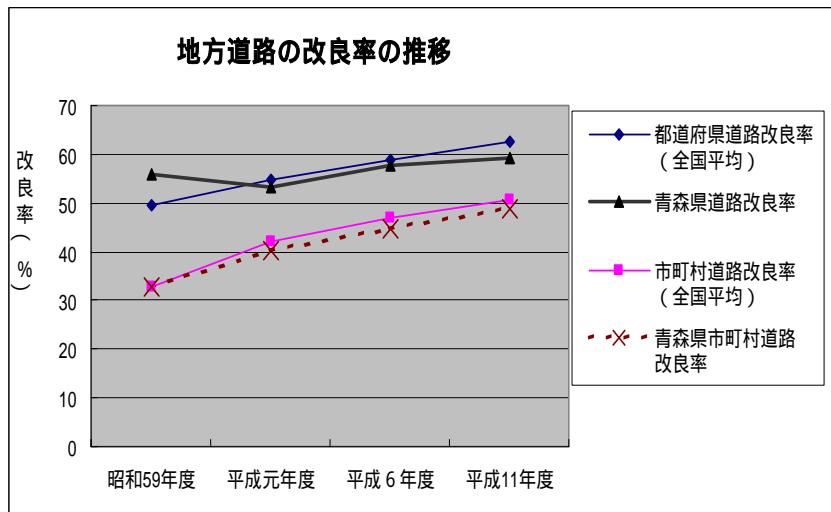
(出所：国土交通省「建設総合統計年度報」  
ただし、平成 14、15 年度は (財) 建設経済研究所の予測)

## <資料2> 景気対策一覧表

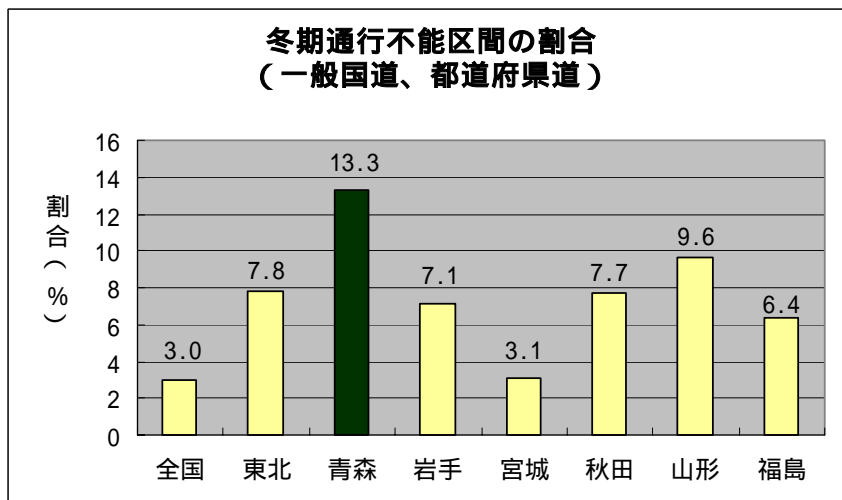
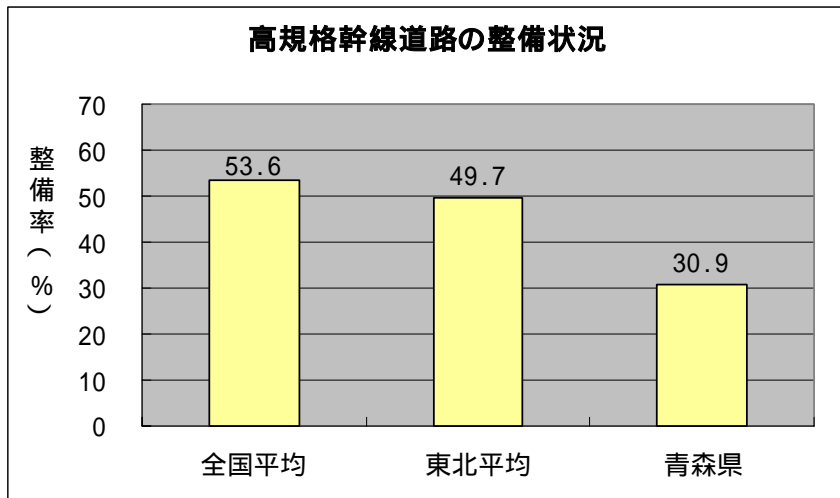
### 景気対策一覧

実施年月	名称	事業規模	公共投資関係 (兆円)	時代背景
平成 4 年 8 月	総合経済対策	10.7 兆円	公共投資等の拡大 8.6 兆円	P K O 協力法成立
平成 5 年 4 月	総合的な経済対策 の推進について	13.2 兆円	公共投資等の拡大 10.62 兆円	細川内閣発足
平成 5 年 9 月	緊急経済対策	約 6.0 兆円	社会資本整備 5.15 兆円	
平成 6 年 2 月	総合経済対策	15.25 兆円	公共投資の拡大 7.2 兆円	羽田内閣発足 村山内閣発足
平成 7 年 4 月	緊急円高・経済対策	約 7.0 兆円	阪神淡路関係 3.8 兆円	阪神淡路大震災 発生
平成 7 年 9 月	経済対策	14.22 兆円	公共投資の拡大 12.81 兆円	
平成 10 年 4 月	総合経済対策	12.0 兆円程 度	社会資本整備	小淵内閣発足
平成 10 年 11 月	緊急経済対策	23.0 兆円超	社会資本整備	
平成 11 年 11 月	経済新生対策	18.0 兆円超	社会資本整備 6.8 兆円	
平成 12 年 10 月	日本新生のための 新発展政策	11.0 兆円程 度	社会資本整備 4.7 兆円	森内閣発足

<資料3> 青森県の社会資本整備状況

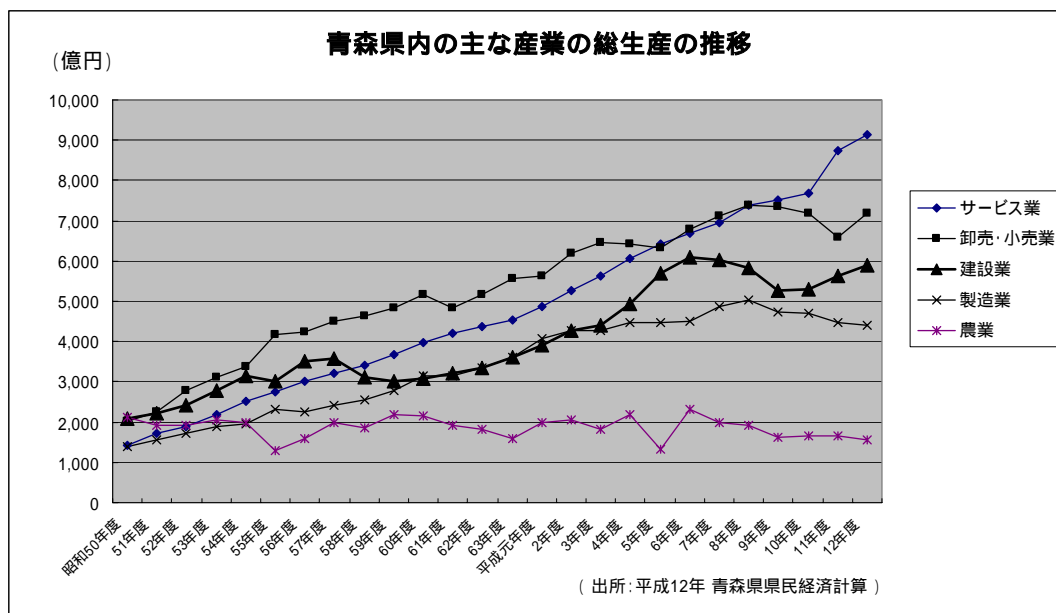


(出所：青森県県土整備部パンフレット「あおもりのみち」2002.5)



(出所：青森県県土整備部パンフレット「あおもりのみち」2002.5)

## <資料4> 青森県の主な産業の総生産の推移



### 経済活動別県内総生産及び要素所得(昭和50年度から)

(百万円)

	昭和50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度	57年度
建設業	208,083	220,431	242,533	279,448	313,548	302,799	351,184	358,958
農業	213,329	190,539	192,340	204,929	199,838	129,910	159,024	198,326
製造業	140,002	156,256	170,743	188,397	194,910	231,352	224,172	240,456
卸売・小売業	203,601	226,686	278,965	311,656	339,449	416,581	424,002	450,920
サービス業	141,855	170,906	190,315	218,238	251,988	275,245	299,818	321,540
その他	568,960	666,555	742,046	807,976	882,540	959,235	1,017,852	1,056,778
合計	1,475,830	1,631,373	1,816,942	2,010,644	2,182,273	2,315,122	2,476,052	2,626,978

	昭和58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	平成元年度	2年度
建設業	311,734	300,410	306,504	321,950	334,480	362,095	390,892	426,165
農業	185,780	219,055	216,509	192,480	183,009	159,314	197,128	204,879
製造業	254,406	277,527	314,305	315,593	332,834	362,447	408,892	427,496
卸売・小売業	462,872	484,232	517,827	484,026	515,313	555,307	564,137	618,867
サービス業	339,821	368,427	396,881	421,475	436,080	454,164	486,575	525,452
その他	1,105,378	1,164,346	1,246,423	1,301,776	1,347,718	1,399,933	1,498,156	1,553,181
合計	2,659,991	2,813,997	2,998,449	3,037,300	3,149,434	3,293,260	3,545,780	3,756,040

	平成3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
建設業	440,965	493,248	570,809	608,555	604,298	583,908	524,963	531,228
農業	180,661	216,860	132,510	233,125	198,668	191,392	162,676	165,565
製造業	427,185	448,634	445,617	449,148	485,443	504,009	471,854	471,050
卸売・小売業	644,772	642,337	633,553	680,053	710,957	738,752	735,701	717,643
サービス業	564,120	604,473	642,469	668,095	696,968	739,302	752,666	766,557
その他	1,626,914	1,663,666	1,689,183	1,724,008	1,750,814	1,808,125	1,866,205	1,858,393
合計	3,884,617	4,069,218	4,114,141	4,362,984	4,447,148	4,565,488	4,514,065	4,510,436

	平成11年度	12年度
建設業	563,609	588,085
農業	166,236	155,463
製造業	447,698	440,157
卸売・小売業	657,352	719,033
サービス業	872,825	914,307
その他	1,908,449	1,890,018
合計	4,616,169	4,707,063

(出所:県民経済計算昭和50年度~平成12年度)

<資料5> 青森県における産業別就業者数の推移

産業別就業者の推移

(人)

	昭和50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度
建設業	71,857	75,995	80,376	85,045	90,054	96,495	93,188
農業	201,593	192,044	182,984	174,392	166,233	158,989	157,416
製造業	67,265	69,379	68,979	70,509	73,381	75,649	78,105
卸売・小売業	108,535	112,212	116,067	120,123	124,524	129,179	128,642
サービス業	80,957	84,061	87,414	90,634	94,540	98,665	99,159
その他	171,287	173,872	176,162	179,249	181,397	184,248	185,460
合計	701,494	707,563	711,982	719,952	730,129	743,225	741,970

	昭和57年度	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度
建設業	90,880	87,172	83,631	80,258	77,486	76,160	75,019
農業	155,704	154,077	152,479	150,915	146,683	142,567	138,648
製造業	77,408	79,942	81,174	83,098	86,357	88,857	94,162
卸売・小売業	128,121	127,712	127,331	127,125	126,394	125,969	125,381
サービス業	100,893	102,389	104,067	105,585	106,215	106,974	107,921
その他	185,078	184,831	184,705	184,775	184,521	185,176	185,970
合計	738,084	736,123	733,387	731,756	727,656	725,703	727,101

	平成元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
建設業	73,992	72,982	76,361	79,811	83,460	87,346	91,460
農業	134,863	131,230	126,572	122,133	117,869	113,760	109,832
製造業	98,056	102,001	106,338	104,498	103,482	101,002	99,889
卸売・小売業	125,030	124,597	125,674	127,060	128,344	129,842	131,396
サービス業	108,813	109,786	112,573	115,477	119,037	122,443	125,936
その他	186,762	187,609	188,447	189,175	189,800	190,577	191,556
合計	727,516	728,205	735,965	738,154	741,992	744,970	750,069

	平成8年度	9年度	10年度	11年度
建設業	95,832	100,455	105,409	110,595
農業	106,096	102,474	99,033	95,692
製造業	98,784	98,099	97,423	93,744
卸売・小売業	132,966	134,061	135,262	136,491
サービス業	129,722	134,565	139,371	144,368
その他	192,542	193,087	193,831	194,609
合計	755,942	762,741	770,329	775,499

(出所：県民経済計算昭和50年度～平成11年度)

< 資料 6 > 青森県内市町村別純生産・就業者産業別構成比

青森県内市町村別の純生産産業別構成比  
(建設業割合20%以上)

網掛けは建設業構成比トップ

	建設業	農業	製造業	卸売・小売業	サービス業	その他
六ヶ所村	72.4%	1.7%	6.6%	2.6%	11.8%	4.8%
東通村	55.6%	1.2%	3.4%	1.4%	10.1%	28.2%
西目屋村	52.3%	7.9%	1.9%	2.1%	16.9%	18.8%
福地村	42.8%	6.9%	19.0%	3.6%	14.6%	13.2%
名川町	40.9%	14.8%	5.3%	5.6%	18.4%	15.1%
小泊村	40.8%	0.6%	3.5%	4.5%	17.0%	33.7%
南郷村	39.3%	14.8%	5.8%	3.5%	19.3%	17.3%
相馬村	37.4%	19.5%	4.4%	3.4%	16.5%	18.7%
佐井村	37.4%	1.0%	3.5%	4.1%	21.4%	32.7%
深浦町	36.9%	4.5%	4.2%	5.6%	22.4%	26.4%
岩崎村	35.5%	4.6%	4.6%	5.9%	18.6%	30.8%
蓮田村	34.1%	13.3%	4.5%	3.9%	13.8%	30.5%
平館村	28.0%	1.7%	6.4%	2.8%	22.5%	38.6%
岩木町	26.8%	13.5%	5.9%	7.7%	28.4%	17.7%
市浦村	26.8%	5.6%	7.4%	5.5%	16.5%	38.1%
上北町	26.6%	13.0%	8.9%	9.1%	21.7%	20.8%
三厩村	25.4%	0.5%	4.9%	6.9%	19.5%	42.8%
蟹田町	25.2%	2.7%	4.0%	5.5%	27.6%	34.9%
常盤村	24.7%	9.8%	6.7%	10.6%	31.9%	16.3%
脇野沢村	24.5%	0.6%	4.1%	10.4%	18.2%	42.2%
碓ヶ関村	24.4%	4.6%	2.1%	6.2%	43.7%	18.9%
今別町	23.5%	3.0%	2.0%	6.7%	29.8%	35.1%
車力村	23.1%	14.3%	3.9%	3.6%	16.4%	38.8%
風間浦村	22.8%	0.2%	3.3%	3.6%	31.9%	38.2%
新郷村	22.7%	21.4%	0.8%	2.9%	30.3%	22.0%
南部町	22.4%	13.0%	4.1%	15.7%	27.6%	17.1%
階上町	21.6%	7.9%	9.7%	8.4%	26.8%	25.6%
倉石村	20.7%	24.5%	3.5%	2.9%	29.5%	18.9%
田舎館村	20.4%	10.4%	18.4%	6.7%	22.3%	21.8%

(出所: 県統計課「市町村民所得統計」平成11年度)

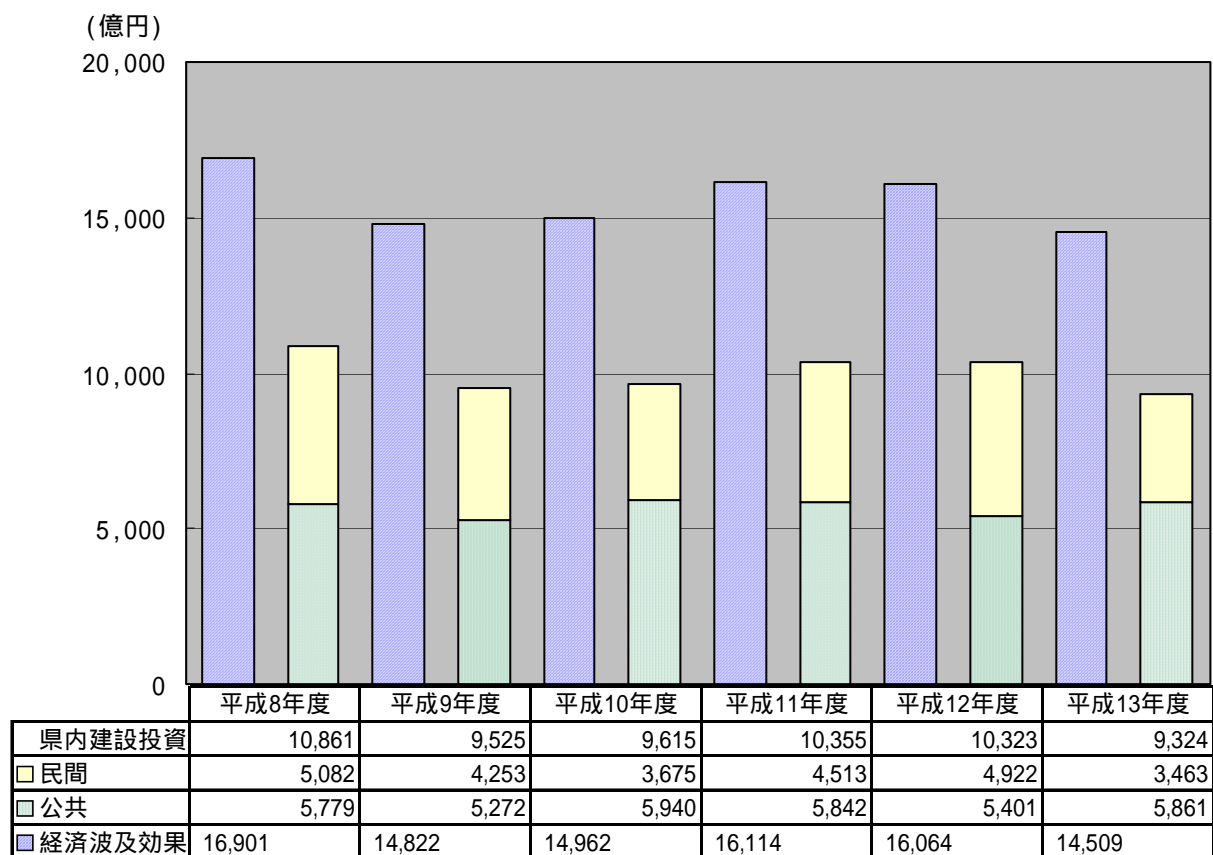
青森県内市町村別の就業者産業別構成比  
(建設業割合20%以上)

網掛けは建設業構成比トップ

	建設業	農業	製造業	卸売・小売業	サービス業	その他
六ヶ所村	35.8%	10.1%	8.5%	9.4%	24.4%	11.8%
東通村	31.6%	7.4%	5.9%	10.1%	16.7%	28.4%
脇野沢村	29.7%	1.2%	14.7%	12.9%	14.9%	26.6%
佐井村	26.9%	1.8%	11.7%	10.5%	20.0%	29.2%
中里町	25.6%	24.3%	14.1%	11.9%	15.7%	8.4%
川内町	24.8%	6.5%	10.6%	13.7%	21.2%	23.1%
岩崎村	24.3%	10.8%	15.3%	11.9%	17.9%	19.8%
小泊村	24.0%	1.6%	14.8%	11.1%	16.0%	32.5%
深浦町	23.7%	9.1%	12.9%	12.4%	19.1%	22.7%
今別町	23.5%	7.2%	13.6%	9.4%	23.7%	22.6%
西目屋村	21.1%	33.3%	7.8%	6.8%	19.9%	11.2%
野辺地町	20.8%	4.2%	11.0%	20.4%	28.5%	15.1%
風間浦村	20.7%	0.5%	8.1%	13.3%	27.2%	30.2%
天間林村	20.5%	28.8%	11.5%	12.4%	16.6%	10.3%
階上町	20.3%	8.0%	16.7%	17.7%	20.3%	16.9%

(出所: 平成12年国勢調査)

## <資料7> 青森県の建設投資と経済波及効果の推移



(注)

- ・係数は平成7年青森県産業連関表を使用
- ・「家計消費支出」は、雇用者所得のうち72.5%が支出に振り向けられると仮定(平成12年青森市平均消費性向から)
- ・「消費による生産誘発額」は、本来は消費額を各部門に割り振るが、ここでは便宜上消費パターンを産業連関表中の民間消費支出と同じだと仮定
- ・理論上3次波及、4次波及と続くが、ここでは2次波及でとどめた
- ・あくまで簡便な試算につき、参考数値にとどまる

<資料 8> 青森県の総工事費の推移（平成 11 年度～13 年度）

	平成11年度	12年度	13年度
青森合計	1,035,475	1,032,311	932,383
民間	451,305	492,164	346,282
建築	357,567	356,863	272,575
居住用	215,398	204,085	185,419
鉱工業用	13,555	10,709	12,143
商業・サービス業用	48,187	55,979	33,677
その他	80,428	86,090	41,336
<b>土木</b>	<b>93,738</b>	<b>135,301</b>	<b>73,707</b>
公共	584,170	540,147	586,101
建築	90,560	75,484	81,692
居住用	14,302	10,108	9,595
その他	76,258	65,375	72,097
<b>土木</b>	<b>493,610</b>	<b>464,663</b>	<b>504,409</b>
一般	412,803	363,880	410,534
企業	80,807	100,783	93,875

	平成12年度	13年度
青森合計	-3,164	-99,928
民間	40,859	-145,882
建築	-704	-84,288
居住用	-11,313	-18,666
鉱工業用	-2,846	1,434
商業・サービス業用	7,792	-22,302
その他	5,662	-44,754
<b>土木</b>	<b>41,563</b>	<b>-61,594</b>
公共	-44,023	45,954
建築	-15,076	6,208
居住用	-4,194	-513
その他	-10,883	6,722
<b>土木</b>	<b>-28,947</b>	<b>39,746</b>
一般	-48,923	46,654
企業	19,976	-6,908

	平成11年度	12年度	13年度
民間土木	93,738	135,301	73,707
増減額		41,564	-61,595
発電用土木	15	1,770	2,487
<b>鉄道</b>	<b>10,211</b>	<b>34,962</b>	<b>19,827</b>
土地造成・埋立	12,321	4,812	5,158
埠頭・港湾	13,633	25,295	522
道路	6,036	6,579	2,578
電気・通信等の電線路	8,116	14,158	17,000
管工事	1,542	2,061	1,018
ゴルフ場建設	19	12	0
構内環境整備	9,161	3,874	3,962
その他の土木	32,684	41,779	21,155

	平成12年度	13年度
民間土木	41,563	-61,595
発電用土木	1,755	717
<b>鉄道</b>	<b>24,751</b>	<b>-15,135</b>
土地造成・埋立	-7,509	346
埠頭・港湾	11,662	-24,773
道路	543	-4,001
電気・通信等の電線路	6,042	2,842
管工事	519	-1,043
ゴルフ場建設	-7	-12
構内環境整備	-5,287	88
その他の土木	9,095	-20,624

(出所:「建設総合統計年度報」平成11年度～13年度)

(注)平成11年度の内訳のうち、

「えん堤・水力発電」は「発電用土木」に、  
「土地造成」は「土地造成・埋立」に、  
「送配電線路等」は「電気・通信等の電線路」に、  
「その他」は「その他の土木」に  
それぞれ読み替えた。

< 資料 9 > 建設業許可業者数 (平成 14 年 3 月末現在)

(平成 14 年 3 月末現在)

	大臣			知事			合計
	一般	特定	純計	一般	特定	純計	
北海道	72	104	136	23,897	2,848	25,084	25,220
青森県	27	21	39	6,980	589	7,168	7,207
岩手県	42	47	64	4,878	432	5,003	5,067
宮城県	105	69	132	7,863	672	8,188	8,320
秋田県	46	39	61	5,267	442	5,425	5,486
山形県	48	39	66	5,497	507	5,647	5,713
福島県	57	55	79	10,347	757	10,631	10,710
茨城県	84	49	113	13,791	807	14,065	14,178
栃木県	44	50	72	9,156	491	9,348	9,420
群馬県	67	61	99	9,804	516	9,999	10,098
埼玉県	198	136	283	26,125	907	26,525	26,808
千葉県	153	116	206	19,262	1,069	19,822	20,028
東京都	2,090	1,918	3,198	46,373	3,226	48,704	51,902
神奈川県	358	319	535	29,240	1,636	30,176	30,711
新潟県	91	85	122	11,772	958	11,998	12,120
富山県	108	85	134	6,374	414	6,506	6,640
石川県	80	73	118	6,451	523	6,713	6,831
福井県	66	67	97	4,624	475	4,811	4,908
山梨県	24	32	41	3,994	358	4,147	4,188
長野県	67	68	98	10,172	906	10,471	10,569
岐阜県	100	95	145	9,609	867	9,946	10,091
静岡県	87	73	127	16,092	1,094	16,682	16,809
愛知県	339	253	465	26,505	1,668	27,337	27,802
三重県	55	54	80	8,640	747	8,890	8,970
滋賀県	43	44	71	5,982	684	6,291	6,362
京都府	158	167	259	14,537	1,069	15,079	15,338
大阪府	1,067	824	1,536	44,342	2,714	45,725	47,261
兵庫県	264	262	410	22,747	1,994	23,686	24,096
奈良県	70	95	118	6,387	633	6,611	6,729
和歌山県	71	70	96	6,165	701	6,346	6,442
鳥取県	35	27	45	2,652	375	2,745	2,790
島根県	58	48	71	3,321	476	3,500	3,571
岡山県	81	78	129	8,652	1,175	9,203	9,332
広島県	187	172	268	13,641	1,178	14,185	14,453
山口県	95	101	145	7,669	667	7,974	8,119
徳島県	26	37	46	4,001	533	4,280	4,326
香川県	69	57	91	4,401	450	4,605	4,696
愛媛県	52	58	82	6,619	801	7,075	7,157
高知県	19	31	41	3,534	539	3,792	3,833
福岡県	319	269	453	23,556	2,072	24,681	25,134
佐賀県	53	76	95	3,823	244	3,924	4,019
長崎県	45	64	82	5,969	714	6,204	6,286
熊本県	65	77	104	7,375	962	7,857	7,961
大分県	51	60	76	5,053	535	5,230	5,306
宮崎県	48	55	74	5,939	592	6,137	6,211
鹿児島県	67	67	92	6,382	845	6,573	6,665
沖縄県	14	13	15	5,242	1,079	5,490	5,505
合計	7,365	6,660	10,909	540,702	43,941	560,479	571,388

(出所: 国土交通省総合政策局建設業課)

<資料 10> 建設業許可業者数の推移（全国、青森県）

（者）

調査時点		全国		青森県	
3月末	年度末	総数	前年比	総数	前年比
昭和59年	昭和58年度末	515,729		6,011	
60年	59年度末	518,964	3,235	5,982	-29
61年	60年度末	517,186	-1,778	5,803	-179
62年	61年度末	510,844	-6,342	5,698	-105
63年	62年度末	510,319	-525	5,644	-54
平成元年	63年度末	510,316	-3	5,544	-100
2年	元年度末	508,874	-1,442	5,579	35
3年	2年度末	515,440	6,566	5,636	57
4年	3年度末	522,450	7,010	5,695	59
5年	4年度末	530,665	8,215	5,815	120
6年	5年度末	543,033	12,368	5,984	169
7年	6年度末	551,661	8,628	6,045	61
8年	7年度末	557,175	5,514	6,127	82
9年	8年度末	564,849	7,674	6,321	194
10年	9年度末	568,548	3,699	6,417	96
11年	10年度末	586,045	17,497	6,764	347
12年	11年度末	600,980	14,935	7,086	322
13年	12年度末	585,959	-15,021	7,157	71
14年	13年度末	571,388	-14,571	7,207	50

（出所：国土交通省総合政策局建設業課）

## <資料 11> 「建設業許可申請理由アンケート」の結果

### 1. 調査の目的

本調査は、「青森県建設産業ビジョン」策定事業において、建設業許可業者数が全国的には減少傾向にあるにもかかわらず、青森県は微増ではあるものの依然増加傾向にあることから、その理由を把握することによって青森県の建設産業の現状を正確に認識し、ビジョン策定のための基礎資料とするため、新規許可申請者を対象に実施したものである。

### 2. 調査の設計

#### (1) 調査対象及び抽出方法

平成7年4月1日以降に新規許可申請した青森県の建設企業  
2,400社

#### (2) 調査の内容

新規に建設業許可を申請した理由

#### (3) 調査の方法

郵送配布、郵送回収（往復はがき）

#### (4) 調査の時期

平成14年10月1日～平成14年10月11日

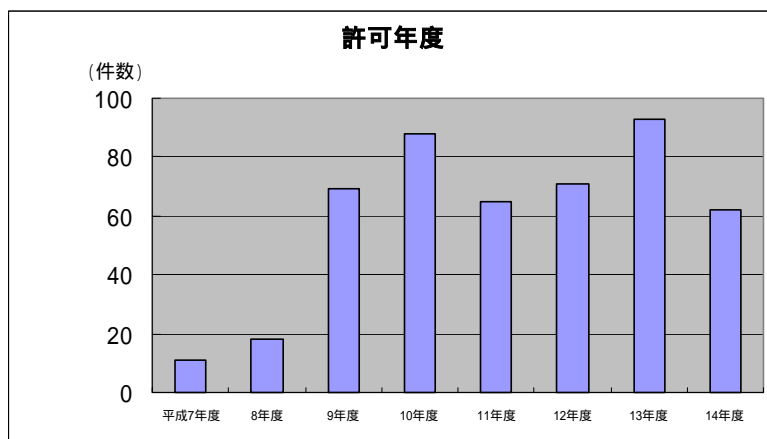
### 3. 回収状況

527社（回収率22.0%）

### 4. 単純集計

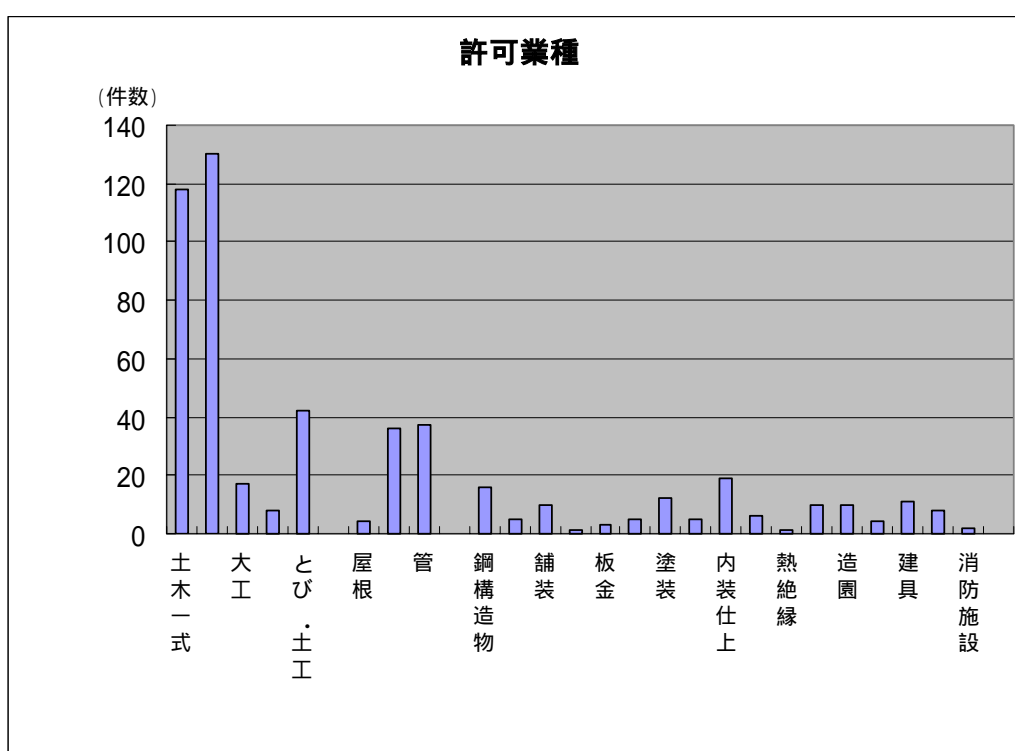
#### (1) 申請年度

7年度	11	2.3%
8年度	18	3.8%
9年度	69	14.5%
10年度	88	18.4%
11年度	65	13.6%
12年度	71	14.9%
13年度	93	19.5%
14年度	62	13.0%
合計	477	100.0%



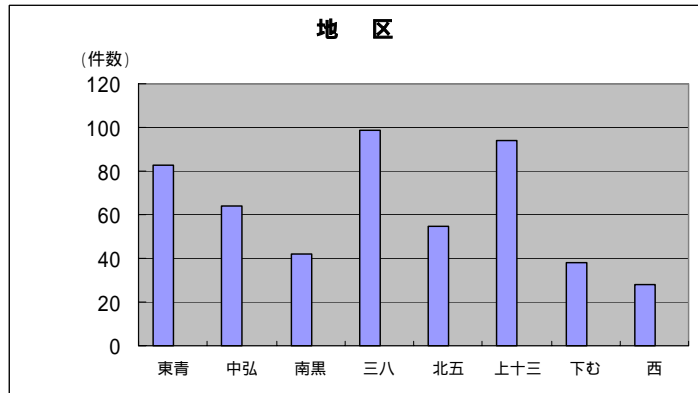
(2) 許可業種

土木一式	118	22.7%	鋼構造物	16	3.1%	熱絶縁	1	0.2%
建築一式	130	25.0%	鉄筋	5	1.0%	電気通信	10	1.9%
大工	17	3.3%	舗装	10	1.9%	造園	10	1.9%
左官	8	1.5%	しゅんせつ	1	0.2%	さく井	4	0.8%
とび・土工	42	8.1%	板金	3	0.6%	建具	11	2.1%
石	0	0.0%	ガラス	5	1.0%	水道施設	8	1.5%
屋根	4	0.8%	塗装	12	2.3%	消防施設	2	0.4%
電気	36	6.9%	防水	5	1.0%	清掃施設	0	0.0%
管	37	7.1%	内装仕上	19	3.7%	合計	520	100%
タイル・レンガ	0	0.0%	機械器具	6	1.2%			



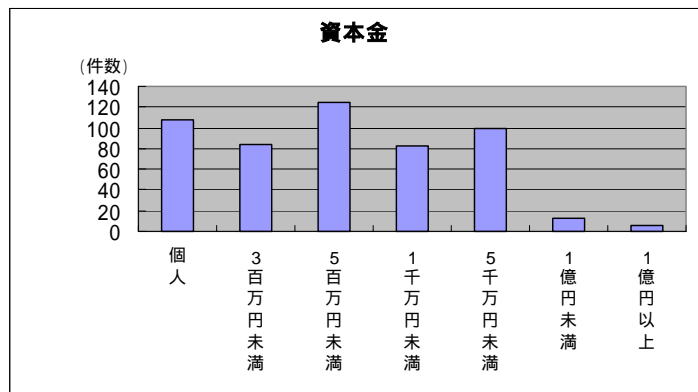
( 3 ) 地区

東青	83	16.5%
中弘	64	12.7%
南黒	42	8.3%
三八	99	19.7%
北五	55	10.9%
上十三	94	18.7%
下む	38	7.6%
西	28	5.6%
合計	503	100.0%



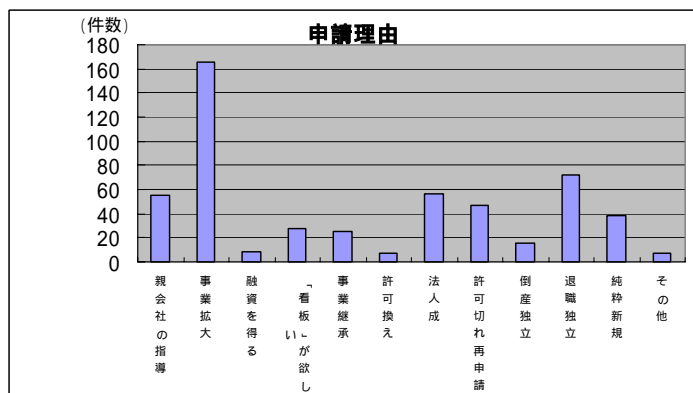
( 4 ) 資本金

個人	108	20.9%
3百万円未満	84	16.3%
5百万円未満	124	24.0%
1千万円未満	83	16.1%
5千万円未満	100	19.4%
1億円未満	12	2.3%
1億円以上	5	1.0%
合計	516	100.0%



( 5 ) 申請理由

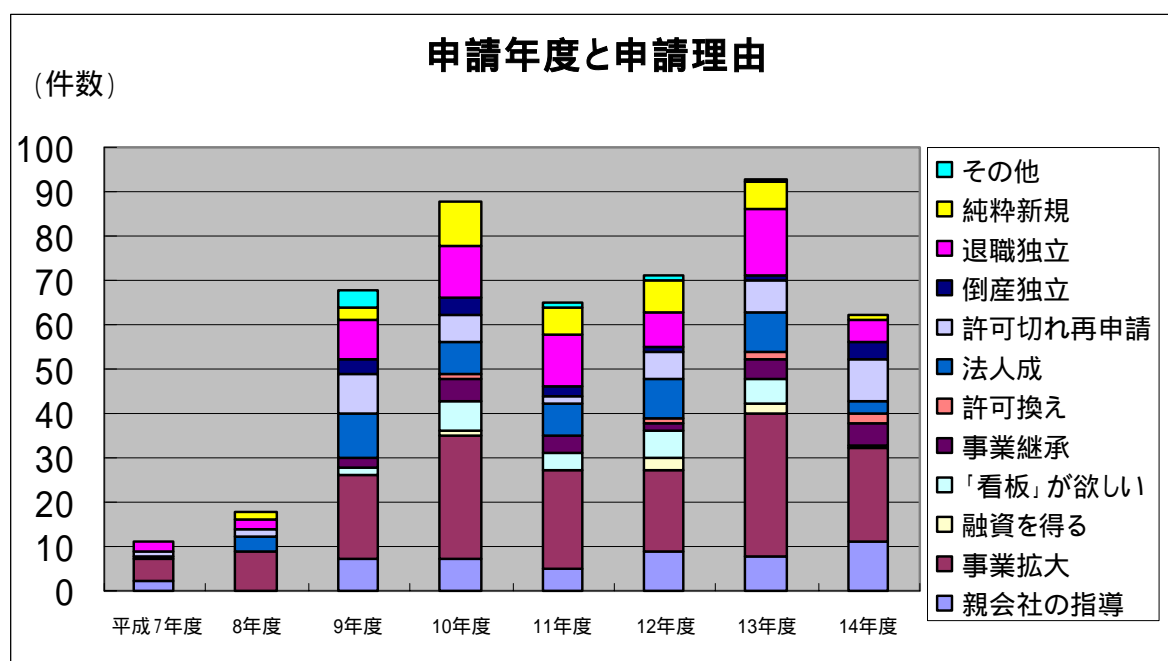
親会社の指導	55	10.5%
事業拡大	166	31.6%
融資を得る	8	1.5%
「看板」	28	5.3%
事業継承	25	4.8%
許可換え	7	1.3%
法人成	56	10.6%
許可切れ再申請	47	8.9%
倒産独立	16	3.0%
退職独立	72	13.7%
純粋新規	39	7.4%
その他	7	1.3%
合計	526	100.0%



## 5. クロス集計

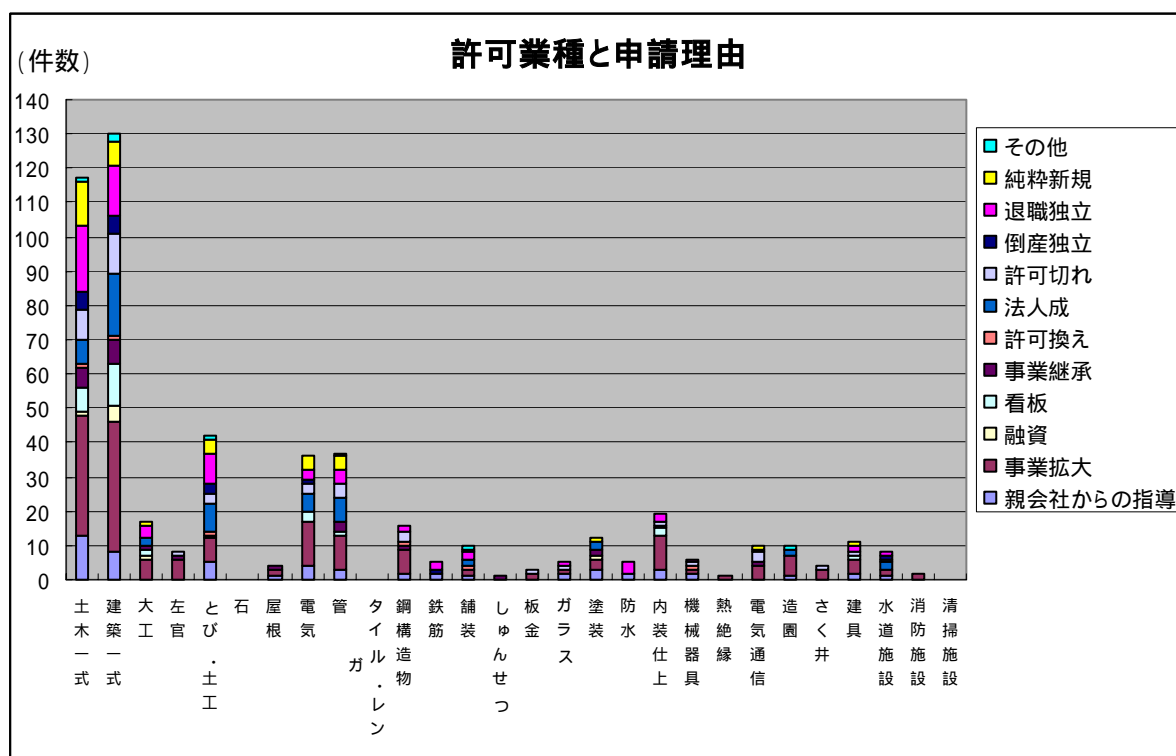
### (1) 申請年度と申請理由

	平成7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	合計
親会社の指導	2	0	7	7	5	9	8	11	49
事業拡大	5	9	19	28	22	18	32	21	154
融資を得る	0	0	0	1	0	3	2	0	6
「看板」が欲しい	0	0	2	7	4	6	6	1	26
事業継承	1	0	2	5	4	2	4	5	23
許可換え	0	0	0	1	0	1	2	2	6
法人成	0	3	10	7	7	9	9	3	48
許可切れ再申請	1	2	9	6	2	6	7	9	42
倒産独立	0	0	3	4	2	1	1	4	15
退職独立	2	2	9	12	12	8	15	5	65
純粹新規	0	2	3	10	6	7	6	1	35
その他	0	0	4	0	1	1	1	0	7
合計	11	18	68	88	65	71	93	62	476



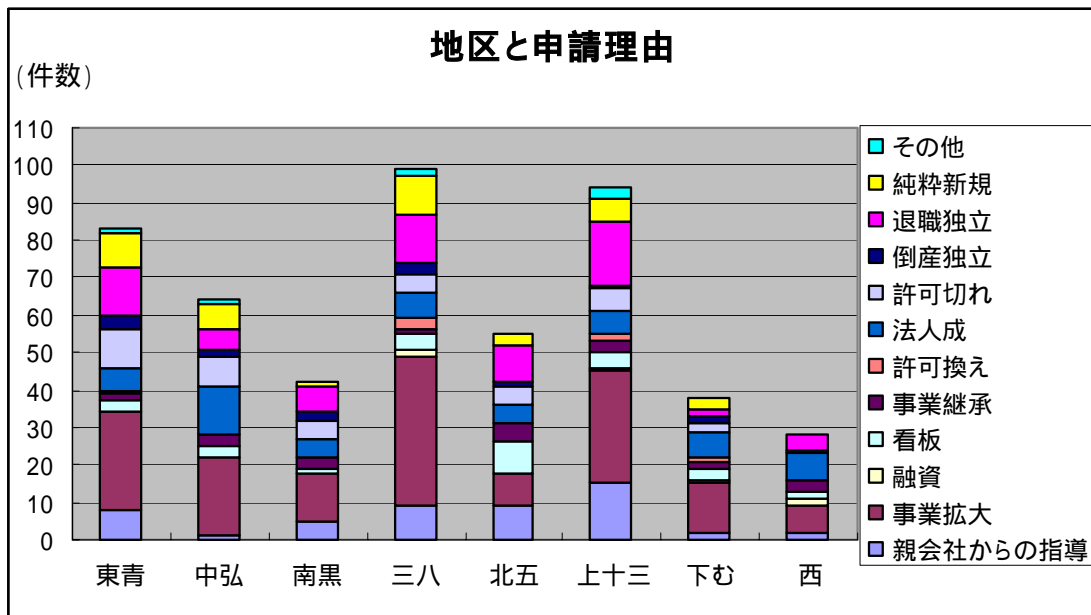
## (2) 許可業種と申請理由

	親会社からの指導	事業拡大	融資	看板	事業継承	許可換え	法人成	許可切れ	倒産独立	退職独立	纯粹新規	その他	合計
土木一式	13	35	1	7	6	1	7	9	5	19	13	1	117
建築一式	8	38	5	12	7	1	18	12	5	15	7	2	130
大工	0	6	1	2	1	0	2	0	0	4	1	0	17
左官	0	6	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	8
とび・土工	5	7	0	0	1	1	8	3	3	9	4	1	42
石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
屋根	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
電気	4	13	0	3	0	0	5	3	1	3	4	0	36
管	3	10	0	1	3	0	7	4	0	4	4	1	37
タイル・レンガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鋼構造物	2	7	0	0	1	1	0	3	0	2	0	0	16
鉄筋	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	5
舗装	1	2	0	0	0	1	2	0	0	2	1	1	10
しゅんせつ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
板金	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
ガラス	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	5
塗装	3	3	1	0	2	0	2	0	0	0	1	0	12
防水	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	5
内装仕上	3	10	0	2	0	1	0	1	0	2	0	0	19
機械器具	2	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	6
熱絶縁	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
電気通信	0	4	0	0	1	0	0	3	0	1	1	0	10
造園	1	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	10
さく井	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
建具	2	4	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	11
水道施設	1	2	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	8
消防施設	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
清掃施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	55	165	8	28	25	7	55	45	16	71	37	7	519



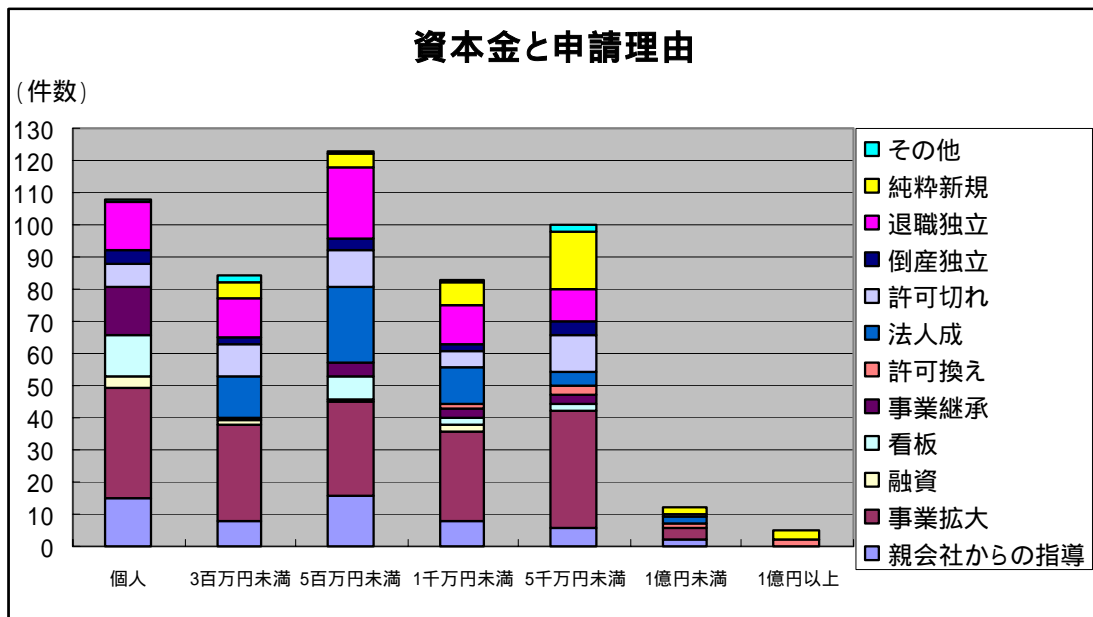
(3) 地区と申請理由

	親会社からの指導	事業拡大	融資	看板	事業継承	許可換え	法人成	許可切れ	倒産独立	退職独立	純粹新規	その他	合計
東青	8	26	0	3	2	1	6	10	4	13	9	1	83
中弘	1	21	0	3	3	0	13	8	2	5	7	1	64
南黒	5	13	0	1	3	0	5	5	2	7	1	0	42
三八	9	40	2	4	1	3	7	5	3	13	10	2	99
北五	9	9	0	8	5	0	5	5	1	10	3	0	55
上十三	15	30	1	4	3	2	6	6	1	17	6	3	94
下む	2	13	1	3	2	1	7	2	2	2	3	0	38
西	2	7	2	2	3	0	7	1	0	4	0	0	28
合計	51	159	6	28	22	7	56	42	15	71	39	7	503



#### (4) 資本金と申請理由

	親会社からの指導	事業拡大	融資	看板	事業継承	許可換え	法人成	許可切れ	倒産独立	退職独立	純粹新規	その他	合計
個人	15	34	4	13	15	0	0	7	4	15	0	1	108
3百万円未満	8	30	1	1	0	0	13	10	2	12	5	2	84
5百万円未満	16	29	1	7	4	0	24	11	4	22	4	1	123
1千万円未満	8	28	2	2	3	1	12	5	2	12	7	1	83
5千万円未満	6	36	0	2	3	3	4	12	4	10	18	2	100
1億円未満	2	4	0	0	0	1	2	1	0	0	2	0	12
1億円以上	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	5
合計	55	161	8	25	25	7	55	46	16	71	39	7	515



## 6. アンケート（はがき）原票

### 1. 新規許可を受けた年度（当てはまる年度を で囲んでください）

7年度、8年度、9年度、10年度、11年度、12年度、13年度、14年度

### 2. 許可業種（1つ）（当てはまる業種を で囲んでください。なお、許可を複数お持ちの方は、直近決算で最も完工高が大きい業種1つを で囲んでください）

土木一式	建築一式	大工	左官	とび・土工	石
屋根	電気	管	タイル工	鋼構造物	鉄筋
舗装	しゅんせつ	板金	ガラス	塗装	防水
内装仕上	機械器具	熱絶縁	電気通信	造園	さく井
建具	水道施設	消防施設	清掃施設		

### 3. 地区（本社所在地）と資本金（当てはまるものを で囲んでください）

地区	東青、中弘、南黒、三八、北五、上十三、下む、西
資本金	個人、3百万未満、5百万未満、1千万未満、5千万未満、1億未満、1億以上

### 4. 許可申請した当時の理由（1つ）（最も当てはまるものに を付けてください）

許可取得前の状態	許可申請の理由 (いろいろあるかと思いますが、総計処理上1つに絞ってください)	印 (12)
許可はなかったが建設業は営んでいた	親会社(元請等)の指導 事業拡大(これからは許可が必要な工事もしたい) 金融機関から融資を得るため 上記以外で、許可業者という「看板」が欲しい	
許可を持っていた	事業継承(個人企業で、事業主の死亡等により、配偶者や子などが事業継承するため) 許可換入(大臣許可又は他都道府県知事許可から青森県知事許可に切り換えるため) 法人成(それまで個人企業だったが、(有)や(株)にした) 許可切れ再申請(更新するのを忘れた)	
建設会社で働いていた	倒産独立(勤めていた会社が倒産したため独立した) 退職独立(勤めていた会社を辞めて独立した)	
建設業以外であった	純粋新規(それまでは建設業とは全く別の業界で事業を営んでいた、建設業以外の会社が建設部門を作った、等) その他(上記以外の理由)自由記入	

お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。

<資料 12> 平成 13 年度国家資格者数 (東北 6 県)

平成 13 年度国家資格数(東北 6 県)

	青森県	秋田県	岩手県	山形県	宮城県	福島県
1級土木施工管理技士	6,134	6,360	6,928	5,170	11,787	8,787
2級土木土木施工管理技士	18,893	18,403	19,999	14,902	23,641	24,298
1級建築士	1,654	1,502	1,778	1,738	4,945	2,638
2級建築士	7,384	8,750	7,822	8,879	15,354	11,501
木造建築士	202	219	159	169	375	215
1級管工事施工管理技士	948	1,032	990	792	2,474	1,472
2級管工事施工管理技士	3,432	3,694	4,141	3,359	6,566	5,870
1級造園施工管理技士	760	859	883	671	1,797	1,325
2級造園施工管理技士	1,445	2,036	1,781	1,636	2,791	2,875
人口(H12国勢調査)	1,497,036	1,189,279	1,412,338	1,244,147	2,365,320	2,126,935
(参考)建設業許可業者数	7,157	5,639	5,084	5,806	8,462	10,972

(出所：国土交通省、各県庁)

## <資料 13> 建設業における雇用管理等に関する実態調査

実施日 平成 14 年 10 月 1 日～15 日

対象 (社)青森県建設業協会 会員企業 234 社

回収 220 社 (回収率 94.0%)

本調査は、本県建設業の雇用管理等を把握するために毎年実施されており、今回のビジョン策定事業における質問として「過去 3 年間から現在に至るまでと、今後に対する教育の状況についてお伺いいたします」を追加した。それに対する実数は次のとおり。

教育に関するアンケート結果(抜粋)

設問項目	回答選択肢	現在まで		今後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
教育の目的 (複数回答可)	現在不足している能力の補充	110	53.9%	112	54.9%
	現有能力の向上	136	66.7%	142	69.6%
	新技術への対応	61	29.9%	118	57.8%
	新分野進出への準備	17	8.3%	45	22.1%
	その他	1	0.5%	0	0.0%

教育上の問題 (複数回答可)	教育対象者がいない	10	5.4%	28	15.1%
	講習がない	9	4.8%	9	4.8%
	講習はあるが場所、時期、時間が不便	135	72.6%	78	41.9%
	費用が高い	106	57.0%	82	44.1%
	教育関連の情報が不足	35	18.8%	23	12.4%
	その他	1	0.5%	0	0.0%

教育の対象者 (複数回答可)	経営者	74	35.4%	74	35.4%
	技術者	185	88.5%	148	70.8%
	一般従業員	141	67.5%	130	62.2%
	作業者	103	49.3%	107	51.2%
	新入社員	89	42.6%	98	46.9%
	その他	1	0.5%	1	0.5%

教育の主催者 (複数回答可)	自社	67	32.2%	66	31.7%
	建設業協会	179	86.1%	150	72.1%
	セミナー	133	63.9%	124	59.6%
	他社	34	16.3%	34	16.3%
	その他	8	3.8%	8	3.8%

教育費用 (複数回答可)	～5千円未満	17	8.2%	12	5.8%
	5千円～1万円未満	42	20.2%	48	23.1%
	1万円～2万円未満	70	33.7%	71	34.1%
	2万円～3万円未満	29	13.9%	25	12.0%
	3万円以上	43	20.7%	29	13.9%

教育内容 (複数回答可)	技術者養成	196	92.0%	144	67.6%
	品質管理能力向上	68	31.9%	108	50.7%
	IT活用	87	40.8%	125	58.7%
	市場変化に対する対応	29	13.6%	53	24.9%
	企業経営	31	14.6%	48	22.5%
	コストダウン体制確立	50	23.5%	99	46.5%
	経営事項審査	117	54.9%	93	43.7%
	建設業経理事務士	120	56.3%	94	44.1%
	その他	2	0.9%	1	0.5%

年間教育計画	ある	103	49.5%
--------	----	-----	-------

教育目標	ある	135	66.2%
------	----	-----	-------

ISOの導入	導入済み	53	25.1%
	これから導入予定	88	41.7%
	導入予定なし	70	33.2%

＜資料 14＞有資格者に対する評価について

有資格者に対する評価について

		取得時一時金 があると回答 した企業数	一時金平均 (円)	手当があると 回答した企業数	手当平均 (円)	昇任昇格への考 慮があると回答 した企業数
土木施工管理技士	1級	19	55,000	123	18,707	125
	2級	14	33,571	101	8,124	91
建設機械施工管理技士	1級	12	36,667	59	11,280	61
	2級	12	28,000	56	5,839	56
建築施工管理技士	1級	10	68,000	69	15,427	63
	2級	7	35,000	57	7,510	48
建築士	1級	8	100,000	53	18,436	53
	2級	6	35,000	43	8,132	36
電気施工管理技士	1級	4	45,000	9	11,143	12
	2級	4	27,500	8	6,083	9
管施工管理技士	1級	7	33,333	31	11,519	35
	2級	5	27,500	26	6,413	33
造園施工管理技士	1級	8	32,500	37	10,576	39
	2級	7	28,333	31	5,333	37
建設業経理事務士	1級	7	60,000	48	12,369	54
	2級	9	33,333	63	6,933	60
その他		0	0	9	10,333	5

注：一時金、手当の平均値は金額を記入した企業のみ集計して計算した

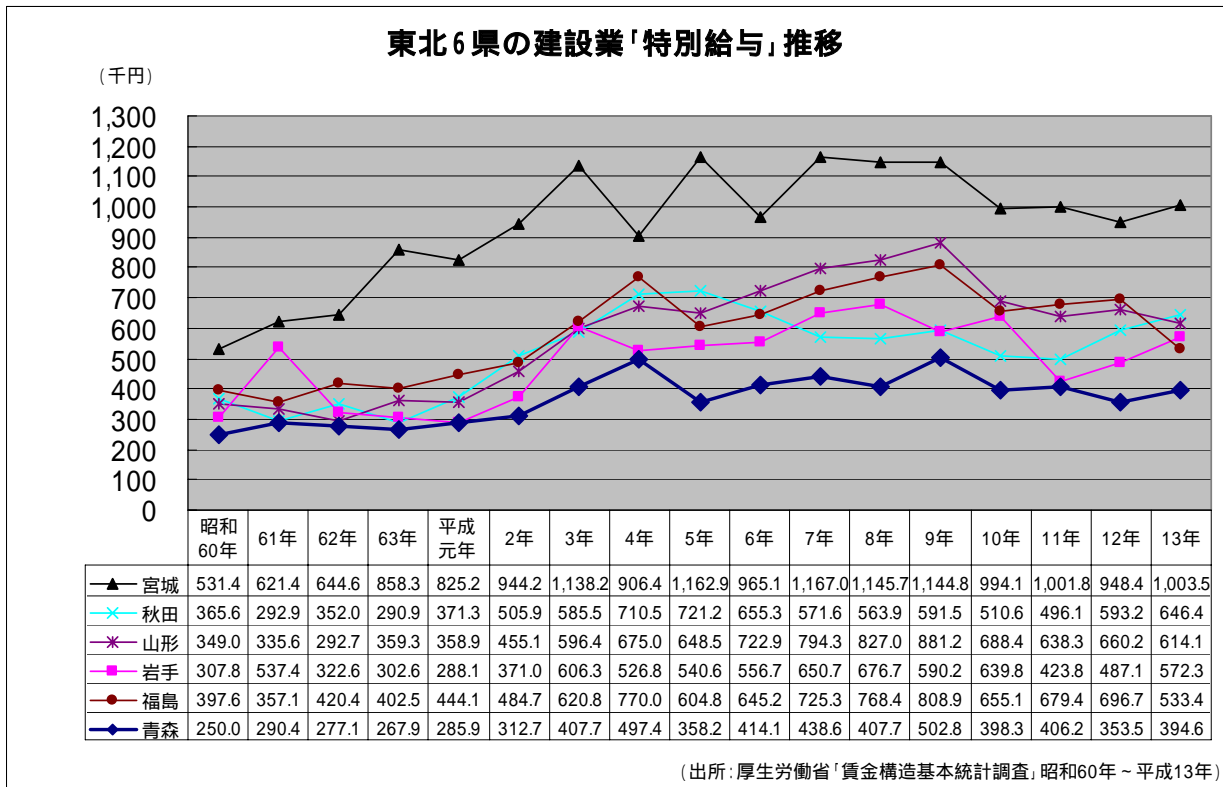
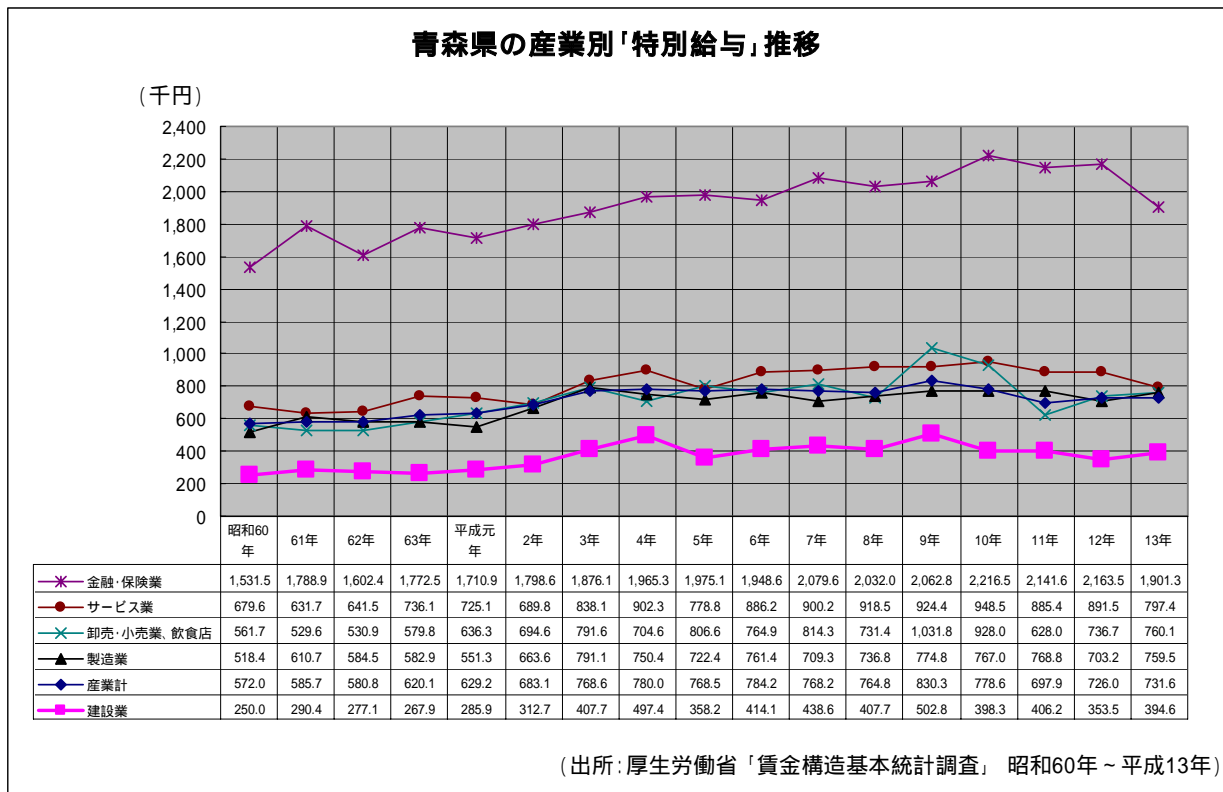
(出所：(社)青森県建設業協会「建設業における雇用管理等に関する実態調査」)

< 資料 15 > 都道府県別産業別賃金水準

順位	年収ベース		定期給与		特別給与	
	産業計	建設業	産業計	建設業	産業計	建設業
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
1	東京 6,834.9	東京 6,757.1	東京 440.1	兵庫 447.4	東京 1,553.7	東京 1,407.5
2	神奈川 6,169.6	大阪 6,363.8	神奈川 404.5	東京 445.8	神奈川 1,315.6	大阪 1,299.8
3	大阪 6,106.4	兵庫 6,261.3	大阪 400.5	大阪 422.0	大阪 1,300.4	奈良 1,147.1
4	愛知 5,958.4	奈良 6,014.3	愛知 389.3	奈良 405.6	愛知 1,286.8	福岡 1,051.2
5	兵庫 5,837.6	神奈川 5,855.3	兵庫 384.3	神奈川 403.9	滋賀 1,236.7	広島 1,024.0
6	滋賀 5,747.5	愛知 5,694.9	千葉 380.6	愛知 391.7	兵庫 1,226.0	新潟 1,013.3
7	千葉 5,733.1	三重 5,604.1	埼玉 376.1	三重 386.8	福岡 1,200.8	神奈川 1,008.5
8	三重 5,594.6	千葉 5,552.5	滋賀 375.9	千葉 383.9	千葉 1,165.9	宮城 1,003.5
9	埼玉 5,585.0	広島 5,527.6	茨城 370.7	広島 375.3	奈良 1,156.2	愛知 994.5
10	茨城 5,568.0	福岡 5,502.0	三重 370.0	山梨 374.3	三重 1,154.6	静岡 972.1
11	福岡 5,548.4	静岡 5,406.1	京都 369.7	京都 372.5	静岡 1,149.3	三重 962.5
12	奈良 5,545.8	宮城 5,366.7	栃木 366.9	福岡 370.9	茨城 1,119.6	千葉 945.7
13	静岡 5,541.3	山梨 5,296.6	静岡 366.0	福岡 369.5	山梨 1,109.0	香川 901.1
14	京都 5,540.0	滋賀 5,287.5	奈良 365.8	埼玉 367.7	栃木 1,106.7	福井 899.8
15	栃木 5,509.5	京都 5,260.6	福岡 362.3	滋賀 367.3	京都 1,103.6	兵庫 892.5
16	山梨 5,437.4	埼玉 5,207.8	群馬 360.8	宮城 363.6	長野 1,093.3	滋賀 879.9
17	群馬 5,420.4	新潟 5,141.3	山梨 360.7	栃木 354.2	群馬 1,090.8	富山 865.9
18	広島 5,356.9	福井 5,092.6	広島 357.0	群馬 352.3	広島 1,072.9	島根 832.4
19	長野 5,238.1	富山 5,057.5	長野 345.4	福井 349.4	香川 1,072.6	長野 813.6
20	香川 5,189.8	香川 5,032.7	岡山 345.3	富山 349.3	埼玉 1,071.8	山梨 805.0
21	山口 5,176.0	栃木 5,024.7	山口 344.4	香川 344.3	福井 1,047.7	岡山 804.5
22	宮城 5,161.6	群馬 4,978.5	宮城 344.3	新潟 344.0	山口 1,043.2	埼玉 795.4
23	福井 5,139.7	岐阜 4,869.5	香川 343.1	和歌山 343.8	徳島 1,039.1	京都 790.6
24	岡山 5,103.4	岡山 4,868.9	富山 341.1	茨城 341.2	宮城 1,030.0	岐阜 788.3
25	石川 5,063.0	長野 4,834.8	福井 341.0	岐阜 340.1	石川 979.4	栃木 774.3
26	岐阜 5,055.6	和歌山 4,810.4	岐阜 340.5	岡山 338.7	愛媛 974.7	山口 767.5
27	和歌山 5,051.9	山口 4,773.1	石川 340.3	長野 335.1	岐阜 969.6	群馬 750.9
28	富山 5,038.7	茨城 4,713.2	和歌山 340.2	山口 333.8	和歌山 969.5	石川 703.0
29	徳島 4,904.3	石川 4,673.8	新潟 328.7	石川 330.9	岡山 959.8	和歌山 684.8
30	愛媛 4,885.5	北海道 4,593.9	愛媛 325.9	北海道 327.1	富山 945.5	北海道 668.7
31	新潟 4,867.2	島根 4,377.2	北海道 325.3	徳島 319.1	新潟 922.8	高知 658.4
32	北海道 4,821.2	徳島 4,339.9	福島 323.8	山形 307.7	北海道 917.6	秋田 646.4
33	福島 4,758.2	高知 4,337.6	徳島 322.1	高知 306.6	佐賀 907.8	宮崎 619.5
34	高知 4,731.3	山形 4,306.5	高知 319.2	福島 301.9	鳥取 901.3	茨城 618.8
35	長崎 4,679.9	大分 4,190.3	長崎 318.5	熊本 299.7	高知 900.9	山形 614.1
36	大分 4,667.5	佐賀 4,176.3	大分 315.3	大分 298.4	大分 883.9	大分 609.5
37	鳥取 4,660.9	宮崎 4,160.7	鳥取 313.3	佐賀 297.4	福島 872.6	佐賀 607.5
38	佐賀 4,601.4	福島 4,156.2	佐賀 307.8	鳥取 296.7	秋田 862.2	沖縄 573.8
39	熊本 4,530.9	秋田 4,114.4	熊本 306.3	島根 295.4	長崎 857.9	岩手 572.3
40	島根 4,513.3	熊本 4,103.6	島根 305.0	宮崎 295.1	熊本 855.3	鹿児島 559.8
41	秋田 4,499.4	沖縄 4,092.2	山形 304.1	沖縄 293.2	島根 853.3	長崎 556.4
42	山形 4,448.4	鳥取 4,065.2	秋田 303.1	長崎 290.9	鹿児島 843.0	福島 533.4
43	宮崎 4,422.5	長崎 4,047.2	宮崎 299.5	秋田 289.0	宮崎 828.5	徳島 510.7
44	岩手 4,409.3	岩手 4,028.3	岩手 299.4	岩手 288.0	岩手 816.5	熊本 507.2
45	鹿児島 4,405.8	愛媛 3,938.2	鹿児島 296.9	愛媛 287.0	山形 799.2	鳥取 504.8
46	沖縄 4,173.5	鹿児島 3,881.4	沖縄 287.4	青森 280.3	青森 731.6	愛媛 494.2
47	青森 4,173.2	青森 3,758.2	青森 286.8	鹿児島 276.8	沖縄 724.7	青森 394.6

(出所：厚生労働省「賃金構造基本統計調査：男性」平成13年度)

<資料 16> 青森県建設業の「特別給与」の水準推移



## <資料 17> 産業別賃金形態別就業者割合

### 産業別賃金形態別就業者割合(全国)

	時間給	日給	月給	年俸制	出来高払制
建設業	0.1	10.6	87.7	1.3	0.3
製造業	2.6	5.1	90.7	1.4	0.2
卸売・小売業、飲食店	3.0	1.0	90.7	3.3	2.0
金融・保険業	0.2	0.0	96.6	0.5	2.7
サービス業	3.3	4.4	87.8	3.5	1.1

(%)

(出所:旧労働省「賃金労働時間制度等総合調査」平成10年)  
四捨五入の関係で合計が100にならない場合がある。

<資料 18> 建設投資における公共依存度の都道府県順位（平成 13 年度）

順位	都道府県	公共依存度	順位	都道府県	公共依存度
1	島根県	76.8%	25	山口県	51.8%
2	鹿児島県	71.5%	26	三重県	51.7%
3	高知県	69.9%	27	和歌山県	50.9%
4	秋田県	66.4%	28	広島県	50.8%
5	岩手県	66.3%	29	長野県	50.5%
6	北海道	65.7%	30	宮城県	47.2%
7	熊本県	64.5%	31	茨城県	47.1%
8	新潟県	63.5%	32	岡山県	46.6%
9	鳥取県	63.5%		全国平均	46.6%
10	宮崎県	63.3%	33	香川県	44.8%
11	青森県	62.9%	34	奈良県	43.8%
12	長崎県	62.2%	35	福岡県	43.0%
13	大分県	62.2%	36	兵庫県	42.9%
14	沖縄県	62.1%	37	静岡県	42.9%
15	愛媛県	60.4%	38	京都府	42.4%
16	徳島県	59.6%	39	愛知県	41.9%
17	福井県	59.6%	40	滋賀県	41.5%
18	岐阜県	58.4%	41	群馬県	39.8%
19	山形県	57.9%	42	栃木県	37.3%
20	福島県	57.4%	43	大阪府	32.3%
21	佐賀県	56.7%	44	埼玉県	30.8%
22	山梨県	54.0%	45	千葉県	29.9%
23	石川県	52.6%	46	東京都	28.2%
24	富山県	52.2%	47	神奈川県	26.0%

（出所：国土交通省「建設総合統計年度報」）

## <資料 19> 主な財務指標と付加価値、財務用語の説明

### 主な財務指標

収益性	総資本経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} \times 100$	この比率が高いほど、収益性が総合的に高いことを示す。
	完成工事高経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{完成工事高}} \times 100$	この比率が高いほど、通常の営業活動の成果が大きいことを示す。
	総資本回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{総資本}}$	この比率が高いほど、資本(総資産)の利用効率が良いことを示す。
安定性	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	この比率が高いほど、短期の支払能力があることを示す。
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	この比率が低いほど、固定資産は自己資本でまかなわれていることを示す。(本編のレーダーチャートでは、この逆数を採用している。)
	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$	この比率が高いほど、経済変動に対する抵抗力が大きく財務健全性が高いことを示す。
生産性	労働分配率	$\frac{\text{人件費}}{\text{付加価値}} \times 100$	この比率が高いほど、付加価値が労働に対して多く分配されていることを示す。
	1人当たり付加価値	$\frac{\text{付加価値}}{\text{従業員数}}$	この数値が大きいほど、生産性が高いことを示す。
成長性	完成工事高増加率	$\frac{\text{当期完成工事高} - \text{前期完成工事高}}{\text{前期完成工事高}} \times 100$	これらの比率が高いほど、成長性が高いことを示し、完成工事高増加率 < 経常利益増加率が望ましい。
	経常利益増加率	$\frac{\text{当期経常利益} - \text{前期経常利益}}{\text{前期経常利益}} \times 100$	

### 付加価値とは

完成工事高 (売上高)	材料費	}	経費
	労務費		
	外注費		
	経費		
	(人件費)		
	(減価償却費)		
営業外収益 (受取利息など)	売上総利益 (粗利益) (販管費・支払利息などはここから支出)		

網掛け部分が付加価値

\* 東日本建設業保証(株)の財務統計指標では、粗利益に営業外収益と経費の中の人件費・減価償却費を加えたものを「付加価値」としています。

\* 「販管費」とは、販売費及び一般管理費のことです。

## 財務用語の説明

用語	説明
営業利益	売上総利益から本社の費用や営業費などの「販売費及び一般管理費(販管費)」を差し引いたもの。本業の利益を示すもの。
キャッシュフロー(CF)	現金収支。「現金」が中心なので経理方式や制度に関係ないことから粉飾決算にも影響されない。 CFには、営業、投資CF、財務CFの3種類がある。営業CFと投資CFを加えたものをフリーCFといい、金融機関等からの借りに頼らずに、その会社が自分の力で稼いだ現金のことである。借入金の返済原資はフリーCFに頼ることになる。 制度や統計により様々な定義があるが、自社内のCFを簡単に把握する方法として、「当期利益+減価償却費」や「現金増減額-借入金増減額」などがある。
経常利益	営業利益から、預貯金の利息や株などの配当金による「営業外収益」と借入金にかかる利息などの「営業外費用」を加減したもので、会社の財務運用を含んだ利益を示すもの。
内部留保	経常利益からその期に特別に発生した収益や費用(土地の売却や火災による損失など)、税金や中間配当金などを加減した上での最終利益(当期末処分利益)に過去の最終利益の累計を加えたもの。自己資本の一部を構成する。

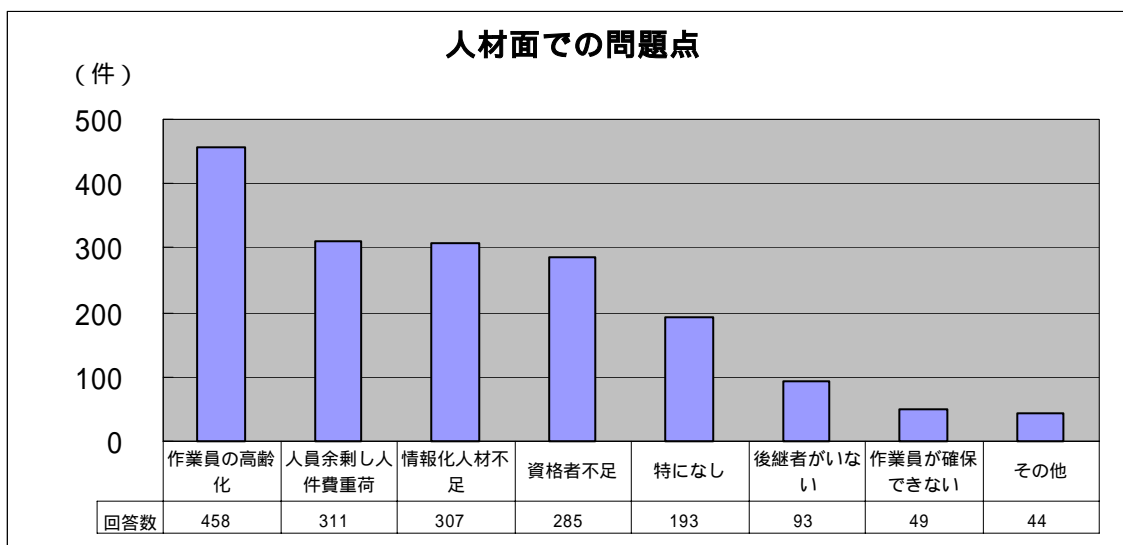
**<資料 20> 青森県建設産業の経営及び情報化のビジョン策定事業  
現況調査報告書（抜粋）**

<経営編・情報化編>平成14年5月 社団法人青森県建設業協会

- ・調査対象 青森県内建設業者 2,195 社  
総合工事業者・専門工事業者
- ・調査内容 経営について、情報化について
- ・調査方法 郵送配布、郵送回収・インターネット回収
- ・調査期間 平成14年1～2月
- ・回収状況 1,126社（回収率51.3%）  
郵送回収1,033社、インターネット回収93社

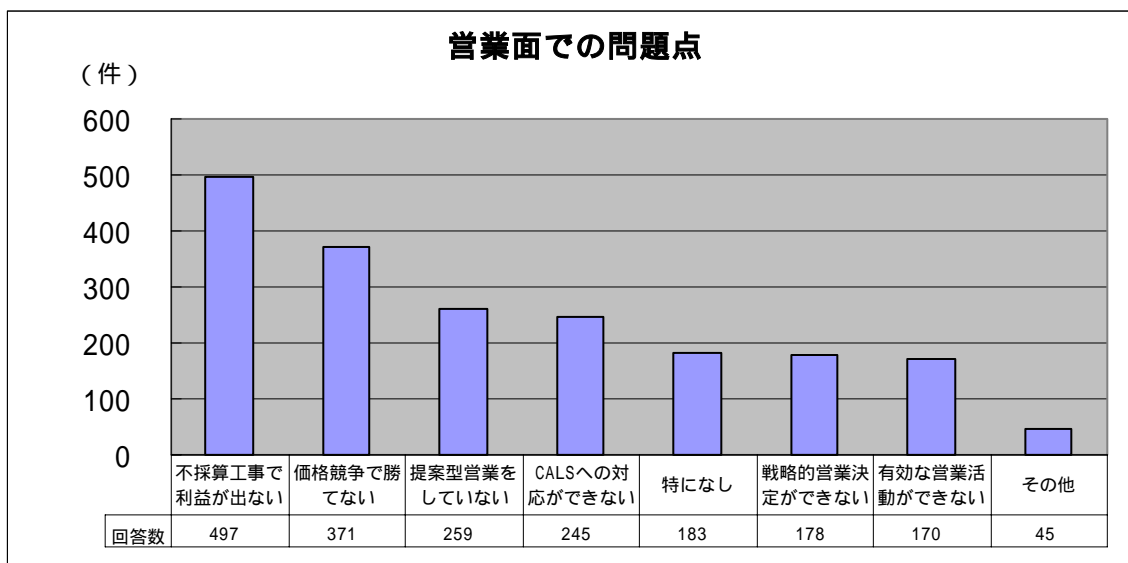
**（経営上の問題点）**

**人材面での問題点**



人材面については最重要問題として「作業員の高齢化」が挙げられています。就業者の年齢構成の状況と同様、若手・中堅層の就業者が少なく、技術伝承などによる技術水準の維持に問題意識を持っていることを表しています。「情報化人材不足」、「資格者不足」と合わせて考えると将来を担う人材の育成について不安を抱いていることが分かります。次の「人員余剰し人件費重荷」は建設投資縮小の中で「人件費」が経営上の大きな問題となっていることを認識しています。

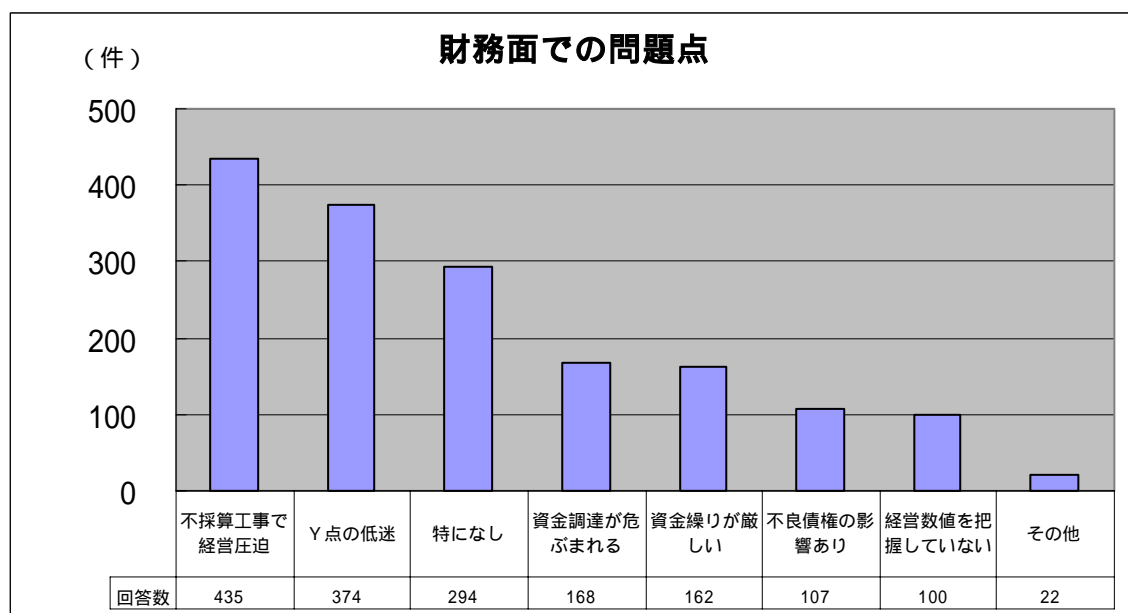
## 営業面での問題点



営業面については最重要問題として「不採算工事で利益が出ない」、その次に「価格競争で勝てない」となっています。これは現在の本県の建設市場が厳しい競争環境にあることを表しています。

これ以外の問題は営業プロセスになります。営業プロセスへの回答が低いのは営業活動への危機意識が不足していると見ることができます。

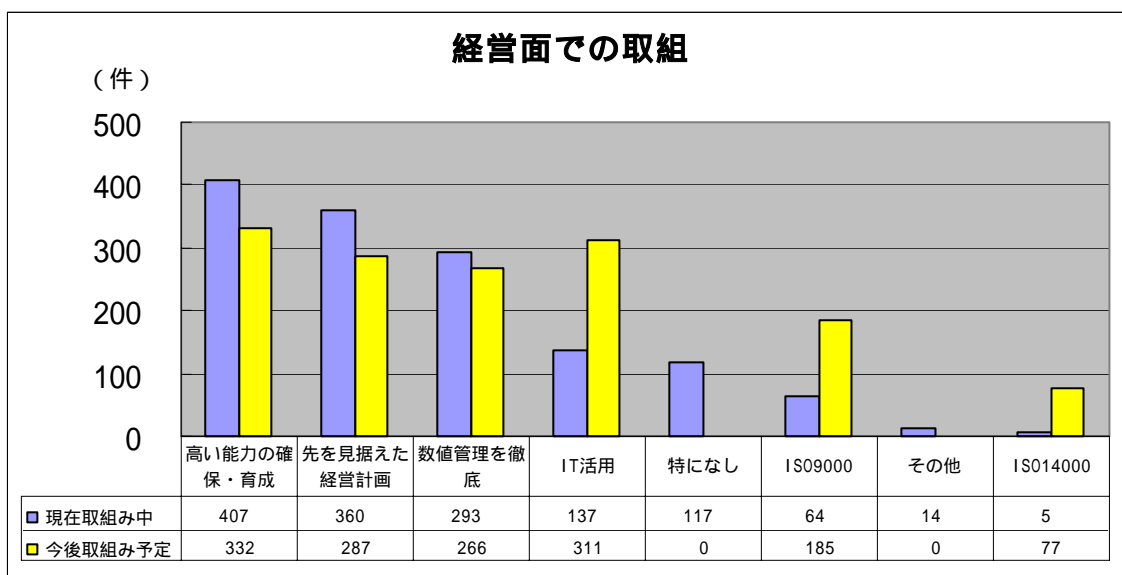
## 財務面での問題点



財務面については「不採算工事で経営圧迫」と「Y点の低迷」が多くなっています。この2項目とも厳しい経営状況を表しています。また、「資金調達が危ぶまれる」、「資金繰りが厳しい」、「不良債権の影響あり」の3項目はすべてお金の絡むものであり、建設投資の縮小による影響が現れていると思われます。

### (経営上の取組課題)

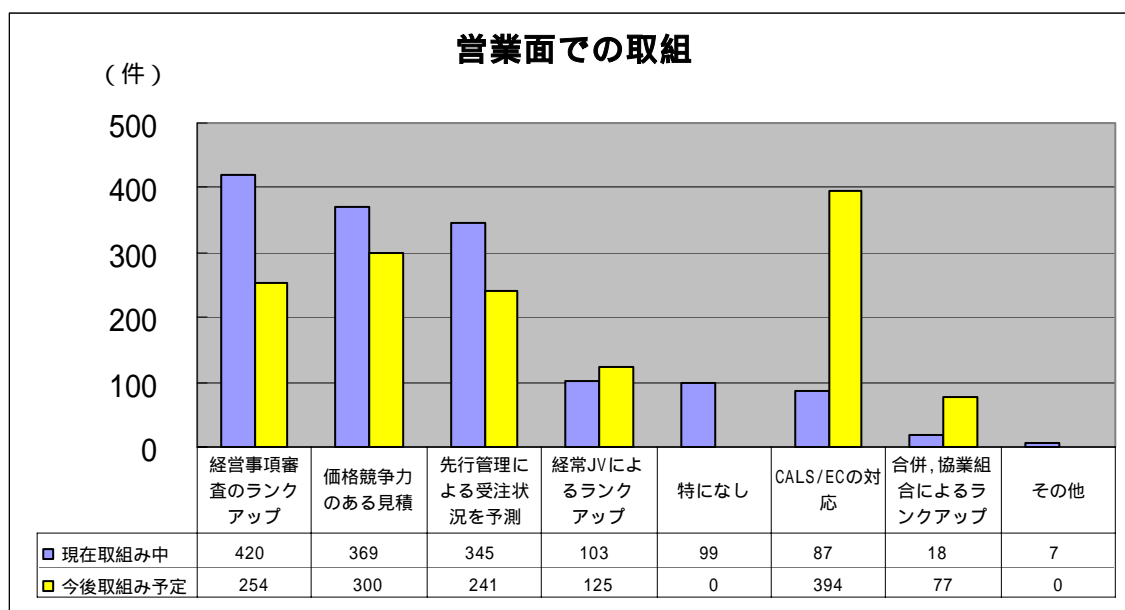
#### 経営の場面で取り組んでいるもの、これから取り組むもの



経営面については、現在取り組んでいるもの、今後取り組み予定のもの両方で、「高い能力の確保・育成」と「先を見据えた経営計画」の回答が多くなっており、経営力自体の強化については強く必要性を感じていることが分かります。

また、今後取り組み予定のもので、「IT活用」や「ISO9000s、ISO14001」の回答が多く、自社経営力強化の手段としてこれらを活用していこうという意向が分かります。

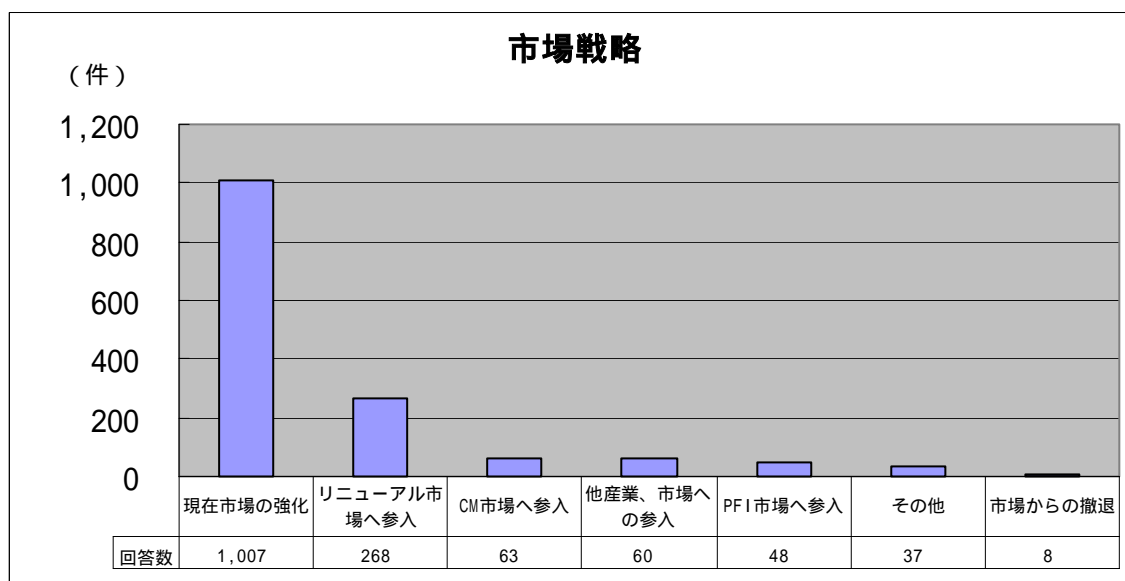
## 営業の場面で取り組んでいるもの、これから取り組むもの



営業面については、現在取り組んでいるもので最も多いのが「経営事項審査のランクアップ」、次いで「価格競争力のある見積」となっており、公共事業に関連する事項に偏っていることから、公共事業志向が高いことが分かります。

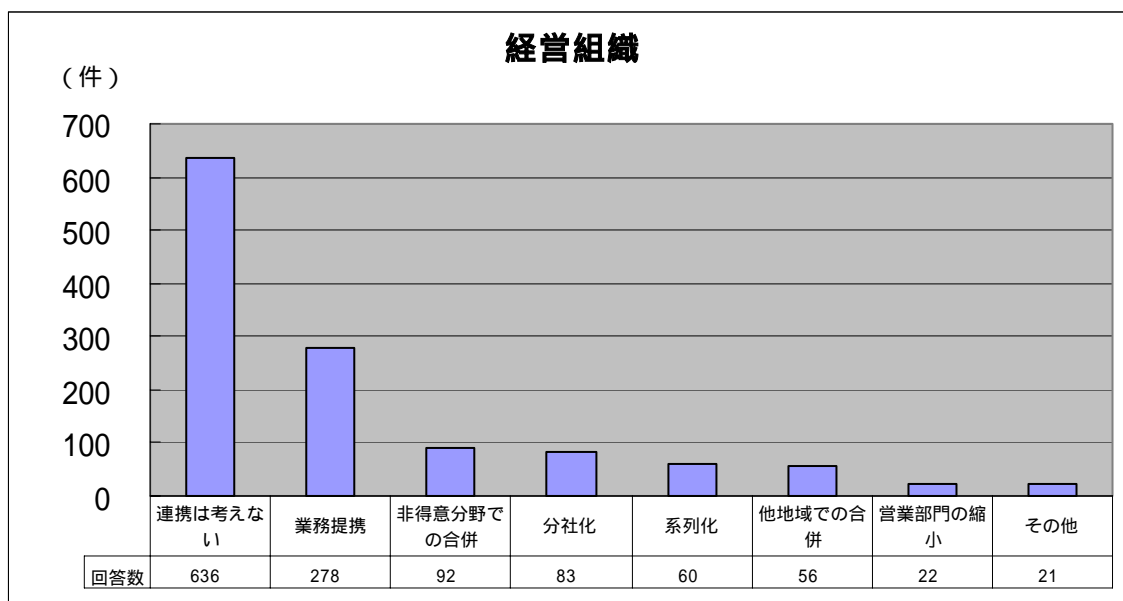
## (市場戦略と組織戦略)

### 市場戦略



市場戦略については、「現在市場の強化」が突出した結果となっています。地盤固めや現在市場で何とか生き抜くことを最優先していると思われます。新たな市場展開に関する回答が少なく、今後予想される建設市場縮小に対する問題意識が低いことを表しています。

## 組織戦略



経営組織の革新や連携については、「連携は考えていない」が圧倒的に多く、次いで他社との「業務提携」となっています。これは、業務提携や合併に関して、建設企業として経営上のメリットを感じていないことを表しています。

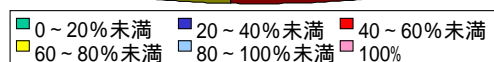
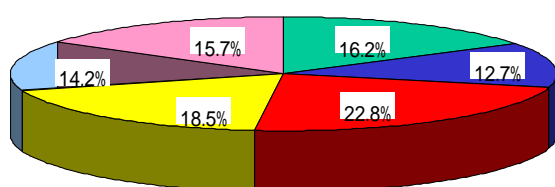
## ( 情報化の現状 )

情報通信環境整備に関しては、パソコンの普及率(パソコン台数÷利用職員数)が60%未満の事業者が半数を超えており、さらにパソコンのインターネット接続率(インターネット接続台数÷パソコン台数)が50%未満の事業者が約3分の2となっています。また、半数以上の事業者がパソコンを活用できる従業員の割合を40%未満とし、専門の職員や組織を設置している事業者もわずか11.5%です。

パソコンの用途に関しても、契約書等の文書作成、見積積算への利用は多くの事業者で見られるものの、人事・給与処理、財務会計処理、工程管理、原価管理等、基幹業務に関わる情報処理への活用はまだ進んでいません。

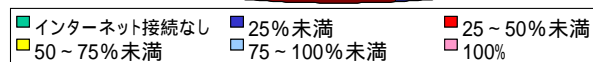
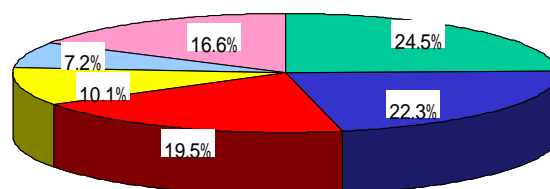
パソコン・インターネット等何らかの形で情報化に取り組んでいる事業者は多いものの、使いこなしている事業者は一部のようです。特に建設CALS/ECに対する県内企業の認識率は全国と比較して低い状況にあります。その内容からは建設産業における情報化が進んでいると言い難い状況にあります。情報通信環境の整備、活用できる従業員の育成等が十分行われておらず、その用途等も発展途上の部分があります。

パソコンの普及率



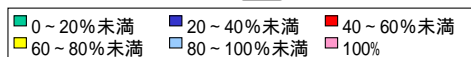
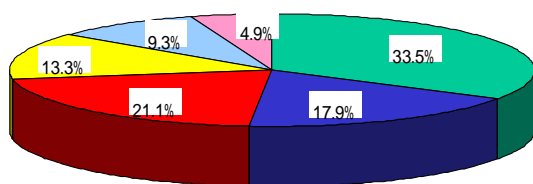
有効回答数=995

パソコンのインターネット接続率



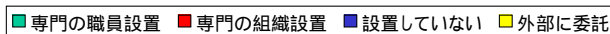
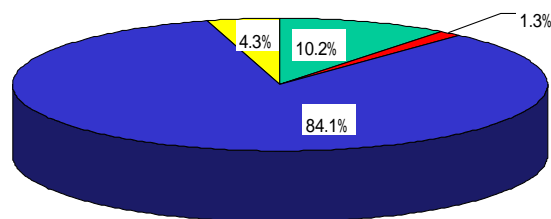
有効回答数=1,033

パソコンを活用できる従業員の割合



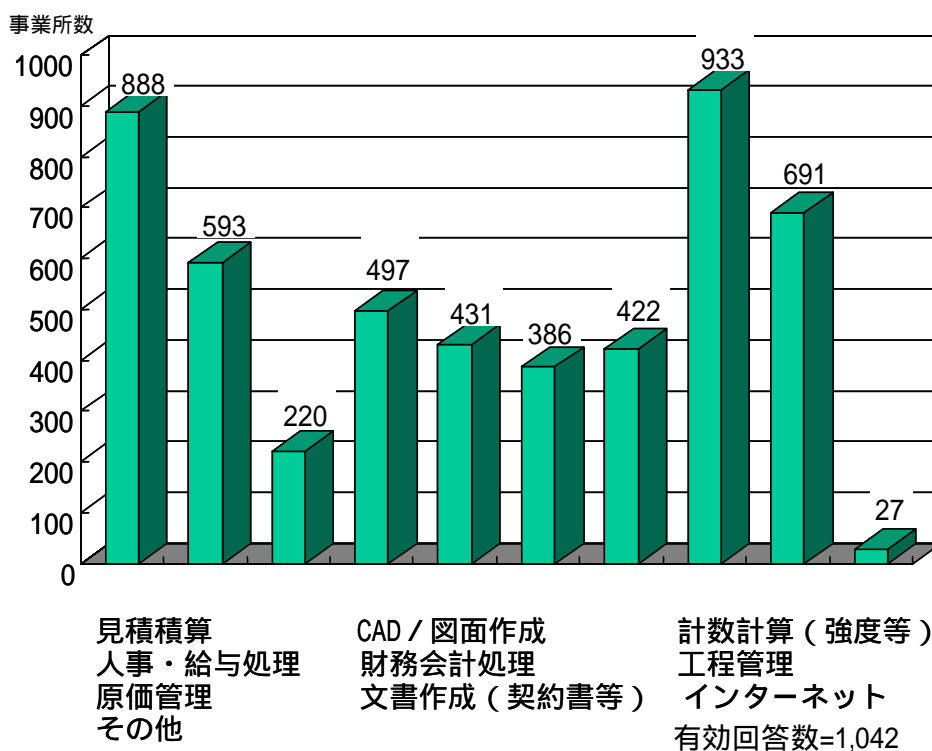
有効回答数=1,035

情報化の専門職 / 組織の設置状況

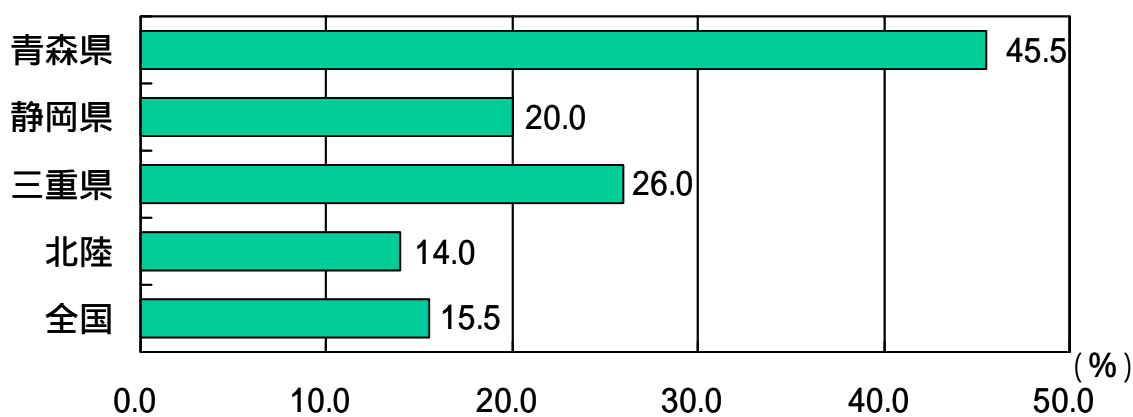


有効回答数=927

## ソフトウェアの導入状況



## 建設 CALS/EC を知らない事業者の割合



- \* 静岡県「建設 CALS/EC に関するアンケート調査結果について」
- \* 三重県「三重県版 CALS/EC 整備基本構想」
- \* 北陸地方 CALS/EC 推進連絡協議会「CALS/EC 地方展開アクションプラン(北陸地方版)」
- \* (財)建設経済研究所「建設企業の情報化への取り組みに関するアンケート調査結果」

## <資料 21> 高齢者福祉の実態

### 1. 主な介護保険対象サービスの見込量

#### (1) 居宅サービス

サービスの種類	単位	平成14年度		平成16年度	
		供給量	充足率(%)	供給量	充足率(%)
訪問介護(ホームヘルプサービス)	(回/週)	37,862	93.9	46,915	97.7
訪問入浴介護	(回/週)	342	88.6	440	98.9
訪問看護	(回/週)	7,418	85.4	9,289	88.8
訪問リハビリテーション	(回/週)	594	69.3	823	79.3
通所介護・通所リハビリテーション	(回/週)	27,264	97.0	30,825	98.8
短期入所生活介護・短期入所療養介護	(回/6ヶ月)	24,723	95.2	29,570	98.6
痴呆対応型共同生活介護 (痴呆性老人グループホーム)	(人)	271		300	

#### (2) 施設サービス

施設の種類の種類	平成12年度末	平成14年度	平成16年度
介護老人福祉施設(人)	4,474	4,811	5,102
介護老人保健施設(人)	4,544	4,864	4,720
介護療養型医療施設(人)	-	1,840	2,130
計	9,018	11,515	11,952

### 2. 主な介護保険対象外サービスの目標量

サービスの種類	単位	平成13年度末	平成16年度
ケアハウス	(床)	520	830
高齢者生活福祉センター	(か所)	14	26
在宅介護支援センター	(か所)	166	194
市町村保健センター等	(か所)	56	67

(出所:「青森県老人保険福祉計画・青森県介護保険事業支援計画」  
青森県企画振興部「経済開発要覧 2002」平成14年7月)

## <用語の説明>

### アルファベット

#### **CM (Construction Management)** (本文 47,60 ページ)

発注者の代理人あるいは補助者として、発注者の利益を確保する立場から、品質管理、工程管理、費用管理を行う方式。工事の計画～設計～施工の各プロセスをマネジメント対象とする。

#### **NPO (Non-Profit Organization)** (本文 56,57 ページ)

民間非営利団体のこと。営利を目的としない民間組織を指す。我が国では非営利団体に対する優遇税制の実施などを目指し、平成 10 年に特定非営利活動促進法（NPO 法）が制定された。地域社会、生活環境をよりよいものにしようという市民活動の一形態として NPO が注目されている。

#### **PDCA (Plan-Do-Check-Action)** (本文 39,52 ページ)

企業の管理に関するサイクルのこと。P は plan（計画を立てること）、D は do（実行すること）、C は check（チェックすること）、A は action（再度実行すること）を示している。

経営の目的を達成するには、行き当たりばったりというわけにはいかない。(1)何をすべきかを事前に計画し、(2)この計画を実行に移し、(3)計画の進捗度をチェックし、(4)目的を達成できるよう必要なアクションをとる、という必要がある。「PDCA の管理サイクルをまわす」という言い方がよく用いられる。

これは管理であればたいのものに適用できる。例えば、工程管理であれば、P = 工程表を立てる  
D = 施工する C = 工程の遅れの原因を探り、工程表や施工手順などを変更する A =  
変更した工程表と施工手順により施工する。あるいは、原価管理であれば、P = 実行予算を作成する  
D = 施工する C = 予算と実際とを比較し、差異を分析する（予実分析） A = 自社の  
標準歩掛を更新し次の実行予算作成にいかす。など。

#### **PFI (Private Finance Initiative)** (本文 3,40,60 ページ)

民間の参加による市場原理の導入により、効率的な社会資本整備を促進することを目的とした事業手法。あるいは社会資本整備・公共サービスといった公的事業の運営を、民間事業者の資金や経営ノウハウを活用して実施する行政手法。従来の第三セクター方式では運営主体に官民から参加するのに対し、PFI は責任分担を事前計画で明確にしたうえで民間事業者に任せるとする。

#### **PM (Project Management)** (本文 47,60 ページ)

建設やエンジニアリング業の有期限・単一目的のために機能統合的に編成される特別組織の管理手法。CM が対象とするプロセスを包含したかたちで、工事の企画～計画～設計～施工～維持管理までをマネジメント対象とする。

#### **VE (Value Engineering)** (本文 60 ページ)

コストに対する機能の割合を価値（バリュー）と考え、その価値を組織的に向上するための考え方、手法。費用対効果の向上。その手順は、機能定義 機能評価 代替案作成 代替案提案。

## あ行

### アウトソーシング

(本文 61 ページ)

業務の外部委託のこと。アウトソーシングの目的としては、コスト削減、経営資源の有効活用などが挙げられる。中小企業でも経理業務は税理士などに委託している場合も多く、業務内容によっては従来から広く用いられている。

重要なのは、アウトソーシングできない部分(コア・コンピタンス)をしっかり持つことである。それがあって初めてコア・コンピタンスに経営資源を集中させることができ、アウトソーシングする意味が出る。

### インセンティブ

(本文 16, 48, 59 ページ)

目標を達成するための刺激のこと。インセンティブには、報奨金などの金銭的処遇だけでなく、福利厚生面や業務遂行面(昇格昇進・権限委譲)の対応も考えられる。

### インターンシップ

(本文 49 ページ)

インターンシップとは学生が在学中に企業等で自らの専攻や将来のキャリアに関連して行う就業体験のこと。平成 13 年度にインターンシップを実施したのは、大学 281 校、短大 127 校、高専 54 校。体験学生数は、大学 25,972 人、短大 3,547 人、高専 5,066 人に上っている。

### エコビジネス

(本文 34, 53 ページ)

環境負荷低減・環境保全に関する事業。公害防止装置、廃棄物処理などに加えて、砂漠緑化事業や環境アセスメントサービス、地球の負荷の少ないエコロジーグッズ、金融商品など、新しいビジネスが生まれている。消費者や顧客も環境に優しい商品や企業を積極的に支持する傾向にあり、今後の成長分野として期待されている。

## か行

### 建設 C A L S / E C

(本文 40, 47, 48 ページ)

C A L S (Continuous Acquisition and Life-cycle Support: 継続的な調達とライフサイクルの支援) 一定の標準に基づいて情報の電子化を図り、ネットワークを介し情報の交換・連携更には共有を可能とし、製品等の開発期間の短縮・コストの削減・生産性の向上を図ること。端的に言えば電子情報化・ペーパーレス化ともいえるが、本質は情報の利用面に力点が置かれている。

E C (Electronic Commerce: 電子商取引) 電子データ交換・電子メール・電子掲示板・ファクシミリ・電子送金等の技術を用いて取引情報の交換を行うこと。

公共事業のライフサイクル全体(計画・調査・設計・施工・維持管理)で発生する各種情報の電子化と、公共事業に関わる関係者全員(国土交通省だけでなく、各省庁・公団・地方自治体などの発注者、設計事務所・建設コンサルタント・建設会社などの受注者)の間で、効率的な情報の交換・共有・連携を行うことにより建設費の縮減と品質確保・向上を同時に実現する。要は、「一度作ったデータを関係者の間で共有し、加工・再利用すること」。

### コミュニティビジネス

(本文 55, 56, 57 ページ)

市民が介護、育児、環境保護などの地域の様々な課題をビジネスチャンスと捉え、ビジネスの手法で解決してゆくことであり、地域におけるコミュニティの再生と地域経済の活性化を同時に達成できる地域づくりの新しい手法

## さ行

### ゼロエミッション

(本文 53 ページ)

将来にわたって人間活動・生産活動を維持するために、資源の消費、廃棄物の排出を抑え、環境への負荷を限りなくゼロに近づけた社会・産業・生産システムを構築するという構想。地域や企業レベルでの取組が行われている。建設業においては企業単位のほか、現場単位でも実施されている。

## た行

### 低入札価格調査

(本文 21, 28 ページ)

一定の基準価格を下回る入札があった場合に、その入札価格で適正な工事の施工が可能であるか否かについて審査する制度。入札参加者の企業努力及び低い価格での落札を促進する観点からは、一定の基準価格を下回る入札を無条件で排除する最低制限価格制度よりも望ましい制度であるといわれている。

## は行

### バリアフリー

(本文 36, 52, 53 ページ)

高齢者、身体障害者等の自立した日常生活及び社会生活を確保するために、建設物の段差などの様々な「壁」を取り除き、利便性や安全性の向上を図ろうとする考え方。

### ほくとう日本

(本文 1 ページ)

北海道と新潟県を含む東北地域を一体的圏域としてとらえ、かつ、新国土軸の形成を通じて魅力ある地域の構築を目指すため、北海道・東北地域を総称したもの。(「ほくとう銀河プラン」平成 6 年 4 月策定)

## ら行

### ライフサイクルコスト

(本文 52 ページ)

建物・構造物の企画・設計から施工、運用、解体までの一連の流れをライフサイクルと呼び、その全体にかかる費用をライフサイクルコスト(LCC)と呼ぶ。建物・構造物の施工費用だけにとらわれるのではなく、このLCCを低減することを重要とする考え方にシフトしてきている。

### ライフライン

(本文 5 ページ)

生活・生命を維持するための水道・電気・ガス・通信などのネットワーク-システムをライフラインと呼ぶ。ライフラインの機能停止は市民生活に大きな支障となるため、人命と並んで重要な防災の対象と位置づけられる。

### 労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)

(本文 45 ページ)

労働安全衛生に関する標準規格で、ISO9000s や ISO14001 と同様に P D C A 管理サイクルによるマネジメントシステム。先進企業では、品質と環境につづいて安全に関するマネジメントシステムもすでに導入している。

## 青森県建設産業ビジョン策定委員会からの提言

平成 15 年 3 月 18 日

青森県の雇用と経済に重要な役割を果たしている建設産業は、公共事業への依存度が非常に高い状況の下、公共投資の大幅な縮小など大きな構造変化に直面しています。

また、県内で推進されている大規模プロジェクトの事業終了による民間建設投資の縮小も見込まれており、引き続き県内建設投資の縮小化傾向は続くものと見込まれます。

この状況は、社会資本整備の担い手である建設産業の衰退を招くだけでなく、雇用の受け皿としての機能を果たしてきた建設産業における企業倒産やリストラによる離職者の急増などが懸念され、地域の雇用不安の発生や地域経済に多大な影響を及ぼす恐れがあります。

このような建設投資の縮小による地域の雇用や経済への影響を最小限にとどめるため、「青森県建設産業ビジョン」に基づく施策を始め、県の各部局間の連携を促進し、あらゆる施策手段を用いて総合的な取組を緊急に推進し、建設産業のソフトランディング対策や建設産業就業者のセーフティーネット構築に全力を注ぐよう提言します。